

岡山市埋蔵文化財調査の概要

1996（平成8）年度

岡山市教育委員会

はじめに

岡山市は、平成9年に岡山築城400年を迎えるこの1年間様々な記念行事を行ってまいりました。教育委員会としても、実にいろいろな行事に取り組んでまいりました。例えば、普段は内部が見られない月見櫓や西手櫓を1年間にわたり開放し、市民のみなさまに見ていただけるようにしたり、あるいは、本丸中の段の発掘調査の出土資料や成果などの展示と解説を行ってきました。岡山城の再認識や再評価に、いくばくかの貢献ができたのではないかと思っております。

築城400年記念行事は、成功裡に終えることができました。しかし、今年もまた、岡山城の整備事業や発掘調査等多くの課題を、当教育委員会は遂行していかなければなりません。岡山市の文化財行政の内情は、相変わらず過酷な状態と言えます。

大量に出土する埋蔵文化財の保管場所も、一段と厳しい状況になっていますが、今年度は、積年の出土物を多く展示する企画が実現しました。少しでも埋蔵文化財に親しんで貰えるように努力を続けております。しかしながら、このような環境のもとで良しとしているわけではありません。当市も、平成9年度に埋蔵文化財センターの用地取得費が認められ、建物の設計にも着手いたしました。いよいよその建設に向けて具体的な第一歩を踏み出しました。近い将来には、市内出土の遺物をいつでも気楽に見ていただけることと思います。

市民の要望と現状との間隙はまだまだ埋めがたいものがありますが、埋めるべく努力は続いています。

本書が市内における埋蔵文化財保護行政の一助となり、活用されれば幸甚に存じます。

平成10年3月

岡山市教育委員会

教育長 戸村 彰孝

例 言

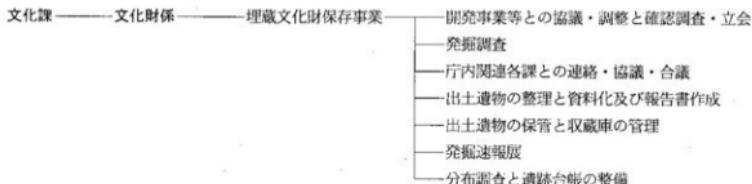
- 本書は1996(平成8)年度の埋蔵文化財に関する事業と調査成果及び保護行政の概要報告である。
- 本書の執筆は全体編集が神谷正義、発掘調査の概要是各担当者が分担して執筆した。
実測・トレースは各担当者が実施。
- 本書に関係する実測図・写真・遺物等はすべて岡山市教育委員会で保管している。
- 本書はあくまで速報性に重点を置いた内容である。したがって、紹介の調査成果は整理途上であり、正式な報告書刊行の時点で訂正される性格のものであることを御了承願いたい。
- 遺物の洗浄・整理・トレース等で、多くの方々(氏名の列記は省かせていただきます)の協力を得ています。関係された皆様に感謝いたします。

目 次

I. 発掘調査の概要	3
II. 埋蔵文化財関連の協議と調整	30
III. 普及・啓発事業と刊行物	35
IV. 受領図書一覧	36
V. 資料の紹介と研究ノート	45

岡山市文化財係の紹介

1. 1996(平成8)年度文化財係の組織図と仕事



2. 担 当 職 員

文化課長 富岡 博司
文化財専門監 出宮 徳尚
課長補佐 根木 修
主任 神谷 正義
文化財保護主事 乗岡 実
文化財保護主事 福崎 由
文化財保護主事 草原 孝典
文化財保護主事 高橋 伸二
文化財保護主事 河田 健司
文化財保護主事 安川 満

3. 収 藏 施 設

赤坂収蔵庫
芳田収蔵庫

I. 発掘調査の概要

発掘調査（98条の2）

- ①上伊福・南方（済生会）遺跡
- ②雄町（アクアガーデン）遺跡
- ③上沼（吉備病院）遺跡
- ④津島江道（岡北中）遺跡
- ⑤岡山城二の丸（中電変電所）跡
- ⑥米田（米田橋）遺跡
- ⑦岡山城本丸内堀遺構
- ⑧乙多見（山陽電研）遺跡

発掘調査（第57条の2）

- ⑨備前国府推定地



かみいふく みなみのかた さいせいかい たちばな
 上伊福・南方(済生会)遺跡(上伊福立花Ⅲ調査区)

所在地 伊福町1丁目
 調査原因 病院施設建設
 時代 弥生時代～

調査期間 960802～961226
 調査面積 約1,500m²
 担当者 扇崎由・安川満

遺跡の概要 当調査区は立花Ⅱ調査区の北隣にあたり、立花Ⅱ調査区の成果から平安時代～中世の河道及び溝群、弥生時代中期～古墳時代初頭の遺構群の検出が予想された。立花Ⅰ、Ⅱ調査区の微高地は南側に広く拡がるようで、約100mほど南の中央病院敷地内の試掘において同一の微高地の末端部と考えられる土層を確認している。また北東側に隣接する交差点部分では共同溝埋設工事に伴い県立古代吉備文化財センターにより調査がなされており、さらに北側にも断続的に遺構が展開している様子がわかってきてている。

調査の概要 当調査区では既存建物による擾乱が著しいものの、主に平安時代～中世の溝群、弥生時代中期～古墳時代初頭の遺構群を検出した。

平安時代～中世の溝群は調査区の東側に集中しており、南北方向に流路をとるSD100、SD101と、東西方向で、東側からSD100に合流するSD102が存在する。このSD100、SD101は立花Ⅱ調査区のSD2006、SD2011にそれぞれ対応するものと思われる。SD100には、SD102の合流部分対面を中心に護岸の「木組み」が存在する。この部分でSD100は幅、深さとも大きく変形しており、この護岸がSD102からの合流水に対するものであることが予想される。この護岸の構造は、杭に横木を組み合わせ、アンペラ状の編物を敷いたもので規模の差はあれ立花Ⅱ調査区のSD2007、SD2011の「木組み」と共通する。

弥生時代中期～古墳時代初頭の遺構群は微高地基盤上面で検出した。微高地は調査区西よりに岬状に突出するものと、北東端部に存在し、両微高地間と北西端は低地部になっている。検出遺構は遺物が伴うものが少ないので時期を決定することが難しいが、多くは弥生時代中期に属するものと考えられる。この大半は柱穴であるが、遺構の重複と擾乱により建物として認識することは困難である。唯一岬状の先端付近に2間×1間以上の掘立柱建物を検出している。またSE58は弥生中期後半に属する井戸であり、径約1.0m、検出面からの深さ約2.8mを測る。この最下層には大型の槽が投棄されていたほか、シカ、イタチ、ネズミ、カエルなどの骨が大量に出土しており、さらに昆虫の破片も多量に含まれていた。

一方、中央部から南東端にかけての谷状の低地部では、5基の貯蔵穴状の土坑が検出された。土器等の出土が少ないとまではっきりしないが、層位からすると弥生時代前期に逆上する可能性もある。このうちSK127からはヒョウタンが出土している。



第1図 調査地点



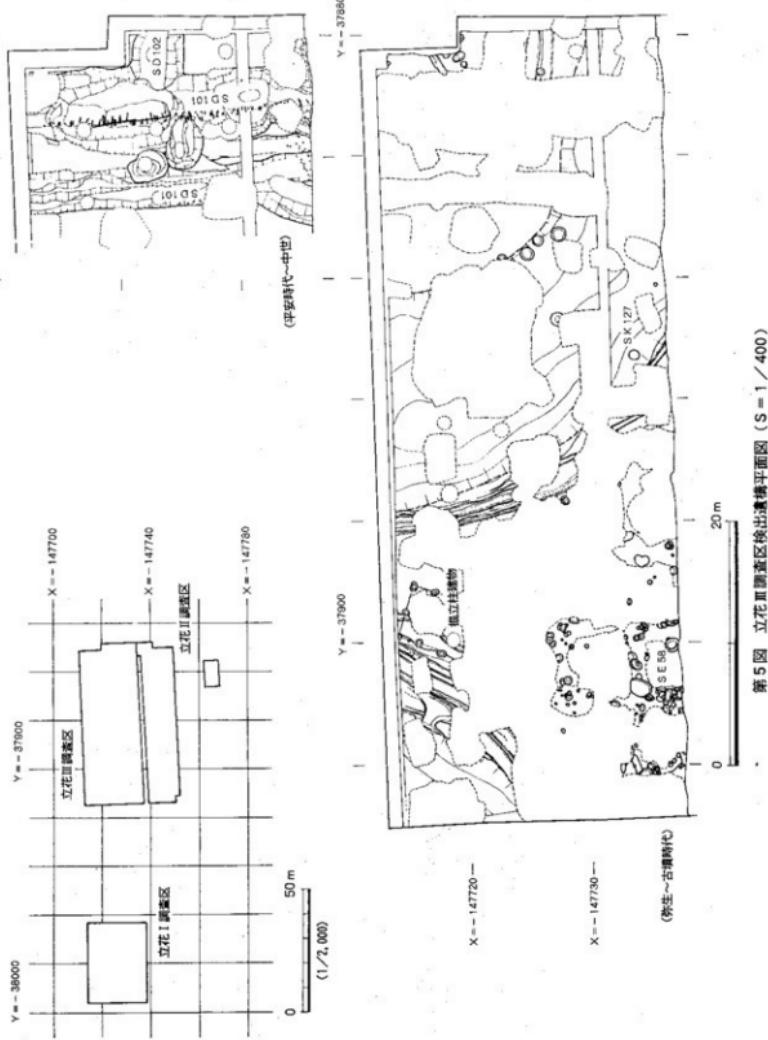
第2図 掘立柱建物



第3図 発掘区全景



第4図 SE 58



第5圖 立花山調查區檢出地層平面圖 ($S = 1 / 400$)

おまち 雄町（アクアガーデン）遺跡

所在地 岡山市雄町350-8ほか三筆
調査原因 都市公園建設
時代 弥生時代ほか

調査期間 960408~960531
調査面積 100.55 m²
担当者 草原 孝典

遺跡の概要 雄町遺跡は旭川の東岸に位置し、付近には權多廃寺下層遺跡、乙多見遺跡などの弥生時代の集落遺跡もある。新幹線の建設に伴う発掘調査で、前期から中期にかけての墓群や住居跡が多数検出されており、周辺の集落遺跡の中核的性格をもつものであった可能性が推測される。付近における小規模な発掘調査や、立会調査の成果から、雄町遺跡の広がりは東西800m、南北400mにもおよぶ範囲と予想されるが、その内部は大小の微高地に形成されたいわば集落群といった景観であったと思われる。しかも前期から後期にかけて全般にその範囲に集落が展開するではなく、中期末から後期にかけて北側に遺跡の範囲が拡大する傾向がありそうである。また今回の調査地点の南西約150mの位置にある宅地の庭から、銅鐸が出土しており、雄町遺跡も奈良県の大福遺跡や愛知県の朝日遺跡のように、銅鐸を有した拠点的な集落であった可能性が高い。

なお、当調査区より南側70mの地点での調査や、南西50mの地点での調査成果と合わせると、新幹線より北側の雄町遺跡は、微高地の上部についてはかなり掘削されており包含層はほとんど残存していない傾向がある。検出される遺構は弥生時代後期初頭が主体である。一方、低位部については上部を微高地の包含層によって埋められており、目につく遺物の量は微高地部よりも多い。

調査の概要 今回の調査地点は、昨年度におこなった便所の浄化槽部の発掘区に隣接した位置で、便所本体の建設予定地である。検出できた遺構面は、弥生時代後期前半、同中期末、縄紋時代晩期の3面である。上面の水田層中には須恵器や土器の破片も認められ、付近に該期の遺跡が存在するものと思われる。

弥生時代後期前半の面では、竪穴住居3棟、掘立柱建物1棟、土壙などが検出されており、今回検出できた遺構面のうち最も遺構密度が高い。

竪穴住居1（第3、5、6、7図）は3.2m×2.4mの方形プランで、柱穴が2つ確認された。焼失家屋と考えられ、焼土と炭化木材が認められた。ただ、床面北半には径0.5mの焼土面が2つ認められ、かなり堅く焼けしまっており、何らかの作業工程において生じた可能性もある。床面には比較的多くの土器が検出されたが、石器やサツカイトの剥片などは認められなかった。土器は、壺、高杯、鉢、器台で、鉢は完形である。土器は全て二次的に火を受けており、器表面はもろくなっている。



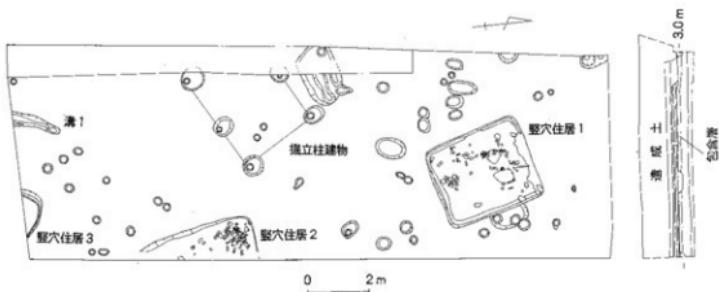
第1図 調査地点



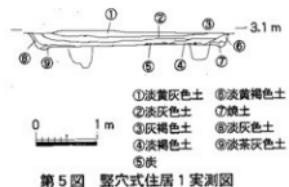
第2図 弥生時代後期面



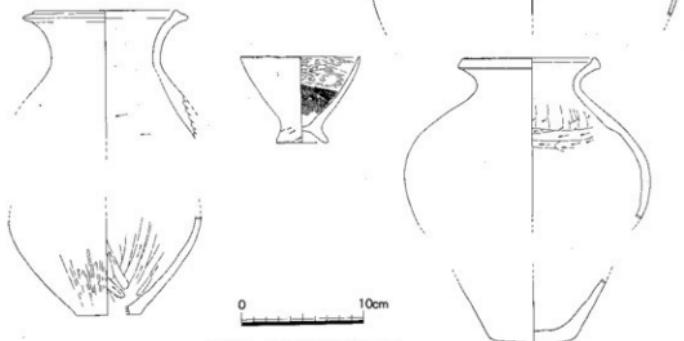
第3図 竪穴住居1



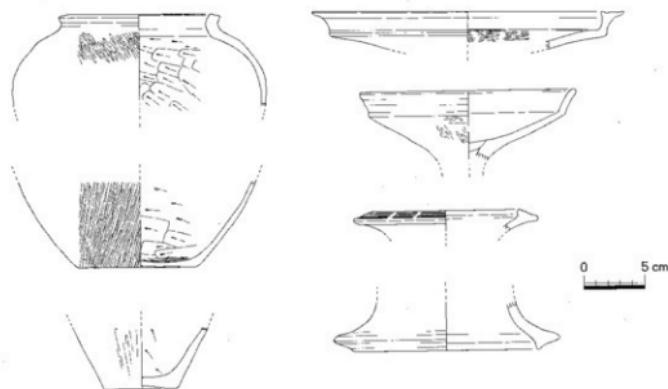
第4図 弥生時代後期面



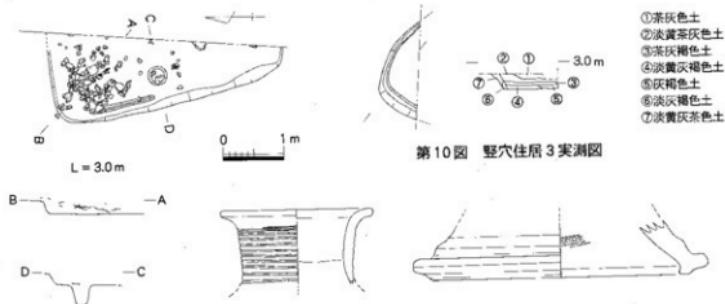
第5図 屋穴式住居1実測図



第6図 屋穴住居出土遺物(1)

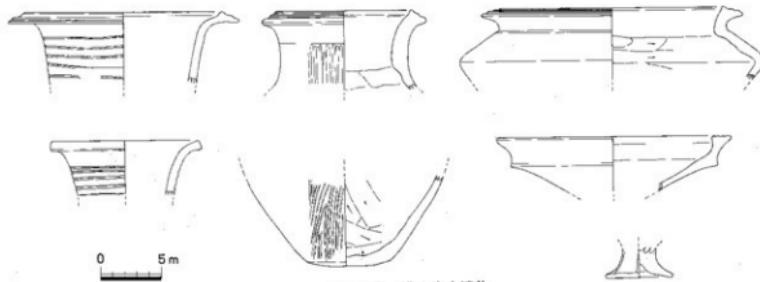


第7図 積穴住居1出土遺物(2)

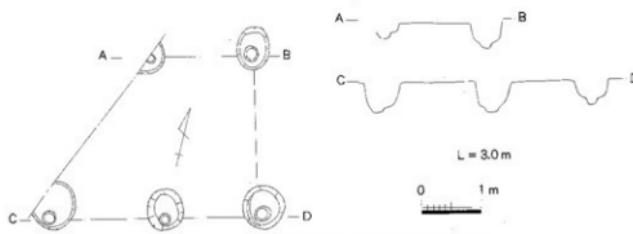


第8図 積穴住居2実測図

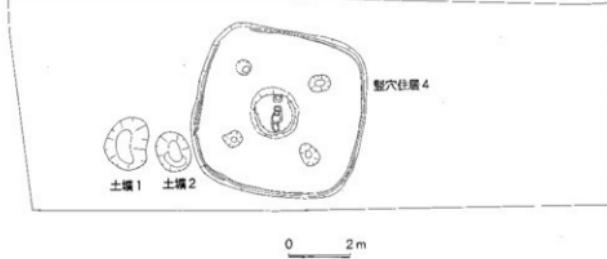
第9図 積穴住居2出土遺物



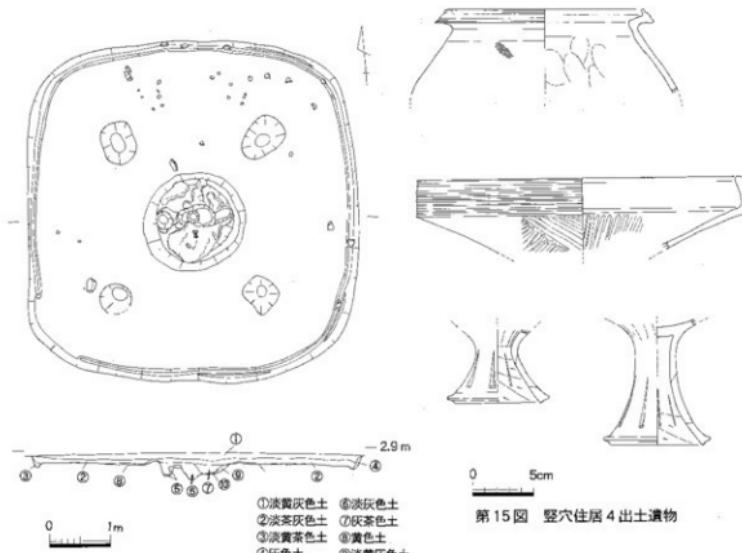
第11図 溝1出土遺物



第12図 捜査柱建物実測図

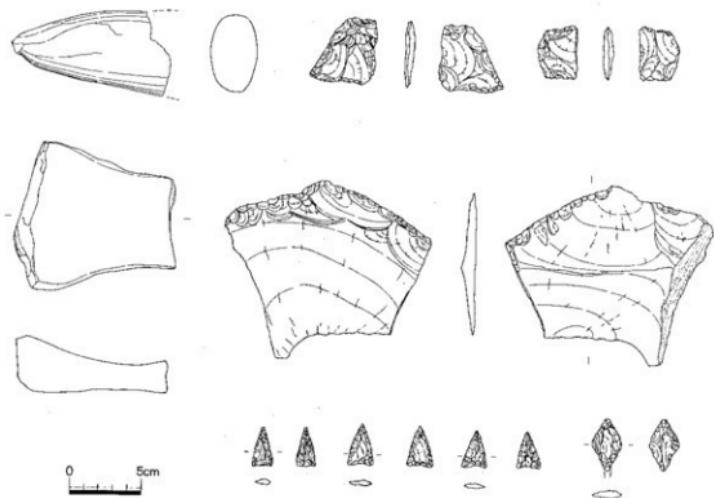


第13図 捲紋時代晚期、弥生時代中期末面

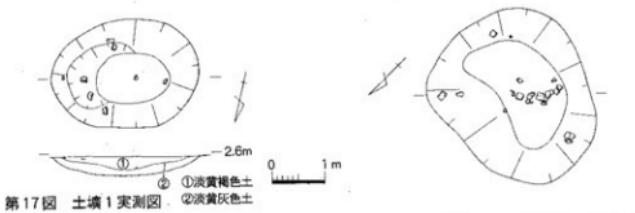


第14図 整穴住居4実測図

第15図 整穴住居4出土遺物



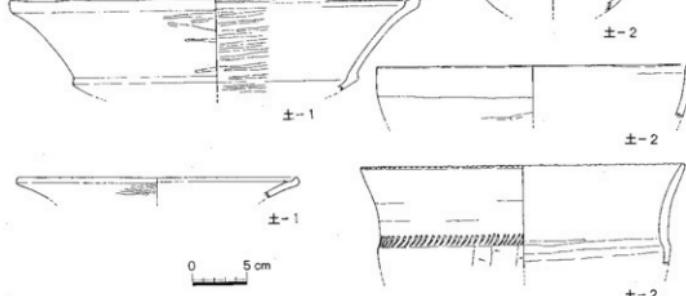
第16図 坂穴住居4出土遺物



第17図 土壌1実測図
①淡黄褐色土
②淡黄灰色土



第18図 土壌2実測図



第19図 土壌1、2出土遺物

堅穴住居2（第8、9図）は大半が調査区外へ出るため全形は明らかでないが、堅穴住居1と同様に一辺が4mほどの方形プランと考えられる。柱穴が1つ確認されており、その位置関係からこの住居跡も2つの柱で構成されていた可能性が高い。遺物は埋土から多く出土しており、あたかも北西コーナー付近から流入したような堆積状況を呈している。大半が壺胴部の破片であったが、長頸壺と器台の破片も若干ふくまれている。器台については溝1から出土している器台片と同一個体と考えられる。

堅穴住居3（第10図）は、調査区内でその一部が検出されたのみで、明確なことはわからないが、方形プランのコーナー部分である可能性が推測される。遺物は、土器の小片が埋土中から出土しているが、全形のわかるものはない。

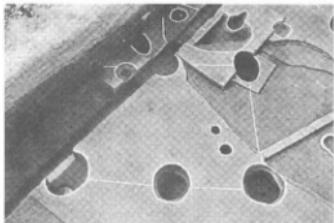
溝1（第11図）は、調査区の南端で検出されたもので、南に行くに従い深くなっている。長方形の土壌である可能性もあるが、南側は調査区外へ出るため全形は不明である。幅は最大で約0.4mとそれ程大きくないが、埋土中からは土器が比較的多く出土した。出土した土器は、壺、甕、高杯、器台、製塙土器である。そのうち器台は堅穴住居2から出土した器台と同一個体と考えられる。

掘立柱建物（第12図）は、調査区の中央やや南よりで検出されたもので、2間×1間の柱構造をしており、柱穴の掘り方は径約0.7mの円形で、深さは検出面から0.6～0.7mである。柱痕跡から柱径は0.2～0.25mと推定される。遺物は、柱穴掘り方の埋土中から壺の破片が出土している。建物の北側には不整形な土壌があり、位置関係からこの建物に付随することも推測される。この土壌の埋土からは土器がまとめて出土しているが、全て底部より浮いた状態であり、埋没過程で流入したと考えられる。

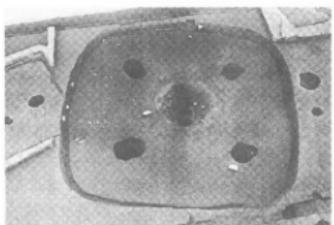
弥生時代中期末の面では、堅穴住居が1棟検出されている（第13図）。堅穴住居4は、調査区の中央付近で検出されたもの（第14図）、一辺が約5.7mの隅丸方形の平面プランを呈する。中央には径約1.8mの周囲を輪状に盛り上げた炉があり、柱は4本で構成されている。柱穴の深さは、床面から0.5～0.6mである。壁体溝は南西部分で若干とぎれるものの、ほぼ全周している。遺物は大半が床面で検出され（第15、16図）、南側で土器の破片が、北側では砥石、石鎌、石斧、サヌカイトの剥片などの石器類が出土する傾向があり、床面の遺物の分布状況に偏りがあった。また、後期初頭の遺構面ではサヌカイトが全く出土しておらず、この地点を見る限り中期末と後期初頭の間で石器の使用頻度が極端に変化しているといえる。中期末の遺構は、堅穴住居以外は検出されず、該期に属する遺物も住居以外からではなくとんど出土していない。この地点に活発な遺構が形成されるのは後期初頭だけといえる。

縄紋時代晚期の遺構面では、土壤が2つ検出されている（第13図）。土壤1は（第17、19図）、長径約0.6m、短径約1mの楕円形のプランで、断面U字形である。遺物は埋土中から検出され、深鉢と浅鉢がある。浅鉢は精製のもので、黒色磨研が明瞭である。土壤2（第18、19図）は、長径約1.7m、短径約1.2mの不整円形のプランで、断面U字形である。遺物は埋土中から検出され、深鉢と浅鉢がある。これらの土壤は出土した土器から、いわゆる原下層式に相当する。当調査区の南側約70mの地点での立会調査でも縄紋晚期の土器片が出土しており、それ程密度は高くないものの晚期の集落遺跡が比較的広範囲に形成されていると思われる。

まとめ 今回の調査により雄町遺跡の北端付近の様相を知る資料が得られた。この地点では縄紋時代晚期から生活痕跡が認められるものの、活発な遺構の形成は弥生時代後期初頭で、おそらく該期が雄町遺跡の集落規模が最も大きくなった時期であることが推測される。岡山市高塚遺跡で出土した銅鐸の埋納時期が後期初頭とされ、雄町出土の銅鐸もその時期であったとすると、雄町遺跡の拡大と銅鐸の埋納とは相互に有機的な関係のあったことも想定されてくる。



第20図 挖立柱建物



第21図 堅穴住居4

かみぬま きび びょういん 上沼（吉備病院）遺跡

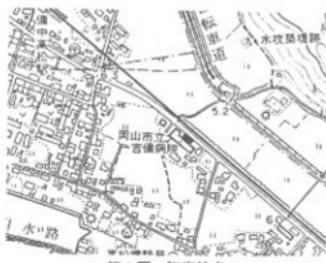
所在地 岡山市高松原古才587
調査原因 病院施設建設
時代 弥生時代～

調査期間 960729～960823
調査面積 175 m²
担当者 草原 孝典

遺跡の概要 上沼遺跡は足守川中流域の東岸にあり、近接して津寺遺跡、政所遺跡などの大規模な集落遺跡も存在している。周辺の丘陵部には多数の古墳も築かれしており、中には全長100mを越える大型古墳も存在している。この地が古代に吉備といわれていた地域の中枢地であったことがうかがわれる。ところで、当遺跡の広がりは、周辺における立会調査の成果から、吉備病院の敷地を越えて北へ伸びていることが確認されており、かなり大規模な集落遺跡である可能性が推測される。しかしながら、面的な調査をおこなったことがなく、遺跡の存続幅などの細かい点についてはよくわからていなかった。したがって、今回の調査は面積的には広くないものの、吉備中枢地に存在する上沼遺跡の実態を知る貴重な調査例となることが予想された。

調査の概要 検出された遺構面は上下2面で、上層は現代および近世の水田層の下に形成されている。下層は上層遺構面との間には幅約30cmの黒褐色粘質土の間層があり、この間層には遺物がほとんど含まれていなかった。

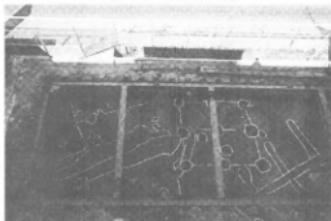
上層の遺構面は、現代の水田耕土を除去後、幅10～20cmの近世水田層直下で検出した。基盤層は淡青黄灰色の砂質土層で、それほどしっかりしたものではない。検出された遺構は、土壤・溝・柱穴・窪み状遺構で、柱穴は大半が調査区外へ出るもの、建物を構成しそうなものもある。しかし、柱穴の径は30cm未満のものばかりで、それほど大きな規模の建物が存在したというのではなさそうである。ただ、その柱穴も調査区の中央付近でしか検出されておらず、当地点は住居域でも縁辺部に位置することが予想される。土壤については、調査区の南半で散在的に分布しており、円形のプランを呈するものと、方形のものとがある。深さは検出面から10～20cmの浅いものばかりで、埋土も1層であった。どの土壤にも遺物はほとんどふくまれていなかったが、一部に土壤中央付近で炭がまとまって検出されたものがあり、簡単な炉かもしくは焚き火の痕跡であることが推測させられる。窪み状遺構は（第5、6、7図）、調査区の北半で検出されたもので、幅は6m以上あり、溝になる可



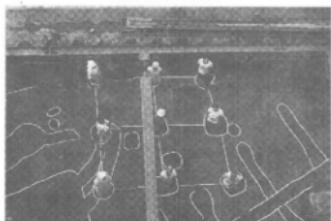
第1図 調査地点



第2図 墓み状遺構

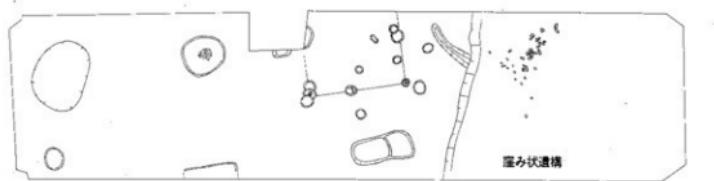


第3図 下層面

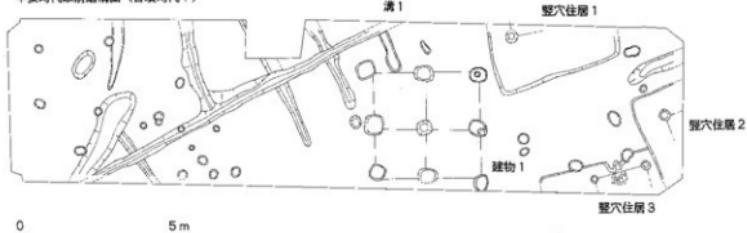


第4図 建物1

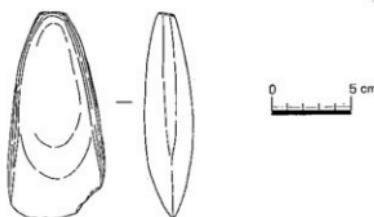
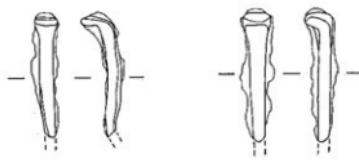
平安時代遺構図



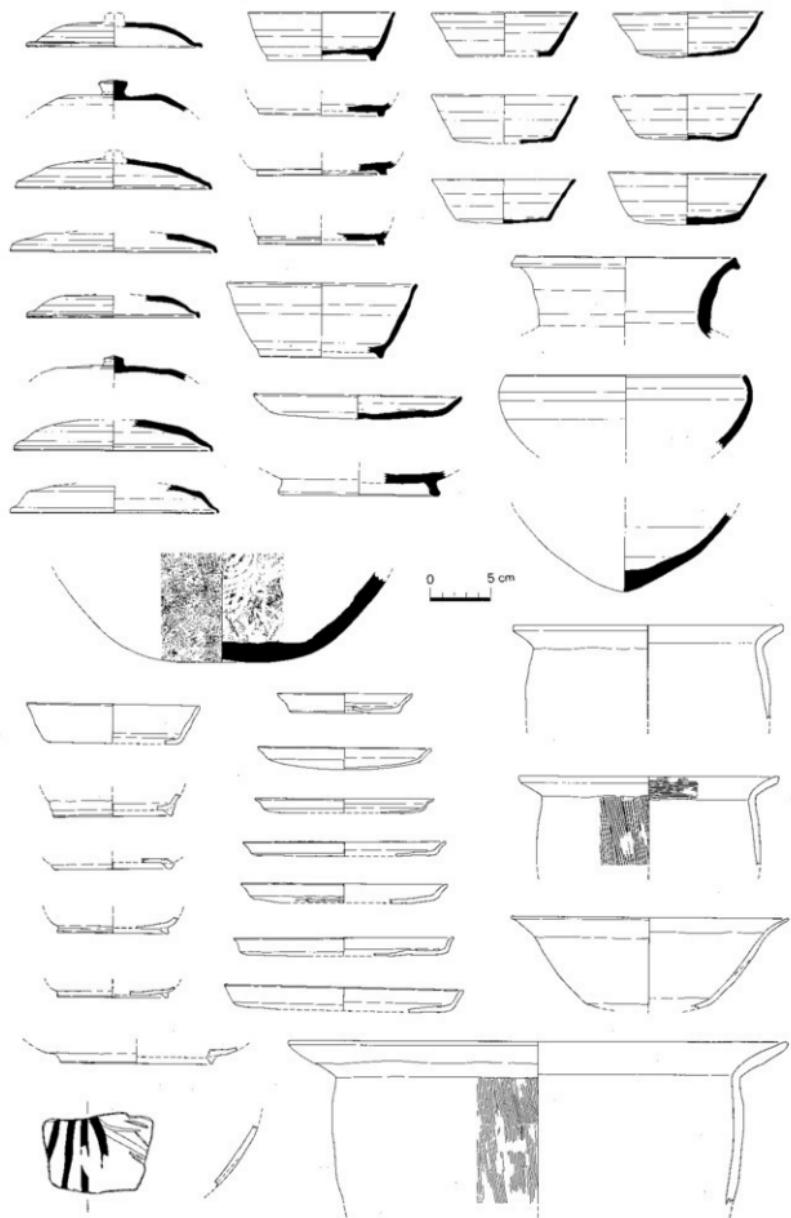
平安時代以前遺構面(古墳時代?)



第5図 遺構図



第6図 窪み状遺構、溝2出土物



第7図 墓み状遺構出土物

能性もある。ただ、この遺構は微高地を掘削して形成されており、埋土にも流水を示すような堆積土層は認められず、大きな土壠になる可能性も考えられる。この遺構の深さは検出面から約60cmで、逆台形の断面形をしている。遺物は須恵器と土師器が、遺構の底部および底部より若干上の位置でまとまって検出された。須恵器は杯、皿、壺、鉢などがあるが、高台の付かない杯の底部は、ヘラ切り後指で押さえている。高台の付く杯は、口径と器高の比から2群ぐらいに分かれそうである。高台の付かない杯は、口径12~12.8cm、器高3.6~4.0cmのほぼ1群にまとまりそうである。杯蓋のつまみは、断面方形のものが多い。土師器は杯、皿、鉢、甕、鍋などがあり、量的には杯、皿などの供膳具が大半を占めている。それらは基本的に回転台を用いて成形されている。破片数は多いが、復元できるものが少ないため法量の傾向については明確ではない。また、1点ではあるが墨書の認められるものがある。破片であるため明確ではないが、文字というより何らかの記号である可能性が高いと思われる。土器以外に鉄釘も2点出土した（第6図）。窪み状遺構は、出土した土器に須恵器が比較的多くみられる点や、高台の付く杯の高さが若干高くなっている点、高台の付かない杯の底部調整などの特徴から、9世紀前半の時期が考えられる。他の遺構については、遺物がほとんど出土していないため明確ではないが、この遺構面からは該期以外の遺物は検出されていないことから、窪み状遺構と大体同じ時期と推定される。ただし、近世水田層中から中世の土器片も出土しており、なかには中世にくだる時期の遺構もふくまれている可能性がある。

下層で検出された遺構は、土壤、溝、建物、堅穴住居である。比較的多くの遺構が検出されたわりには、出土した遺物の量は少ない。そのため個々の遺構の時期については明確でない点が多い。また、限られた面積の調査区内だけでの見知りであるが、基盤となる微高地は北にいくにしたがいレベル高が低くなる傾向にある。しかし、その反面遺構の密度は増している。

建物1は、1辺が0.6~0.7mの隅丸方形の掘り方の柱穴で構成されており、2間×2間の縦柱建物である。柱穴の深さも、検出面から50~60cmはある。遺物は掘り方の埋土から須恵器の小片が出土している。

堅穴住居は調査区北端で3棟が検出された。堅穴住居1は調査区の北西で検出されたもので、1辺が4mぐらいの方形の平面プランと推定される。上面は上層の遺構によりかなり掘削されており、床面から10cmほどしか残存していないかった。床面で柱穴が1つ検出され、遺物は埋土から須恵器の小片が若干出土した。堅穴住居2は調査区の北端で検出されたもので、1辺3m以上の方形プランと推定される。床面から柱穴が1つ検出された。遺物は埋土中から土師器の小片が若干出土した。堅穴住居3は堅穴住居2に北側を削平されている。西壁にはカマドが付設されており、カマドの周辺の床面には炭屑が分布している。カマドを挟んだ両脇で柱穴が2つ検出された。遺物は埋土から土師器の小片が若干出土している。

溝はほとんどが調査区の南半で検出されており、大まかには東西方向と南北方向の2群に分かれる。切り合ひ関係から、南北方向の方が古い傾向がある。いずれも幅50cm未溝、深さ20cm未溝の小規模なものばかりで、遺物もほとんど含まれていない。ただ、溝1からは石斧（第6図）が1点出土している。他に土師器の小片も含まれていることから、石斧は他の地点、もしくは他の遺構から流れこんだものと考えられる。

下層で出土した遺物は少なく、それぞれの遺構の時期を明確にすることは困難であるが、断片的な土器から、大体古墳時代後期の遺構面と推測される。ただ、下層の遺構面が形成されている微高地基盤層はかなりしっかりとおり、同微高地上には他の時期の遺構も形成されている可能性はあると思われる。

まとめ 今回の調査で、上沼遺跡は少なくとも古墳時代後期の遺構面と平安時代前期の遺構面とが存在していることが確認できた。また1点ではあるが石斧も出土していることから、付近に弥生時代の遺構も存在する可能性がある。わずかな面積ではあったが、吉備中枢地に存在する上沼遺跡を理解するための貴重な資料が得られたと思われる。

つしまえどう こうほくちゅう 津島江道（岡北中）遺跡

所在地 岡山市津島東1丁目1-1
調査原因 納入棟建設
時代 繩紋時代～

調査期間 960829～970530
調査面積 600 m²
担当者 草原 孝典

遺跡の概要 津島江道遺跡は、旭川の西岸の沖積平野部に位置する。付近には弥生時代前期初頭の集落遺跡である津島遺跡や、繩紋時代後期の集落遺跡である津島（岡大）遺跡などがある。津島江道遺跡は、今回調査した地点以外でも校舎および浄化槽建築の際に発掘調査されており、弥生時代から中世の集落や、突帯紋期と考えられる水田を検出している。ただ、弥生時代から古墳時代の遺構密度はそれ程高くなく、集落地としては縁辺部にあたると推定され、該期の集落地の主体はより北側にあるものと考えられる。また、同中学校敷地に北接する青年会館建築の際にも発掘調査がおこなわれており、弥生時代から古墳時代にかけての住居跡や、官衙に関すると思われる掘立柱建物が多数検出されている。今回の調査区は青年会館の敷地に隣接しており、遺構の様相としては後者に近いことが予想された。

調査の概要 検出できた遺構面は、繩紋時代後期、弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代後期、飛鳥時代～平安時代である。遺物の量は弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代後期、飛鳥時代に属するものが多い。以下各時期の概要を説明する。

繩紋時代後期には径20～30cmのピットが調査区全体で検出されたが、遺構の中には遺物がほとんどふくまれず、焼土や炭などの分布も認められない。おそらくキャンプサイト的な遺跡ではなかったかと推定される。弥生時代後期～古墳時代初頭は、調査区北側にある該期の微高地の縁辺部にあたるらしく、調査区の北側では竪穴住居2棟と土壤、そして調査区中央部では東西方向に西流する幅約1.5mの溝が検出された。土壤からは銅鏡が1点出土しており、溝からは多量の土器が溝廃絶後の壅み部分に投棄された状態で出土した。この溝は數回掘り直されており、出土した土器の時期幅から、弥生時代後期前半から古墳時代初頭まで同じ位置に存在していたと思われる。

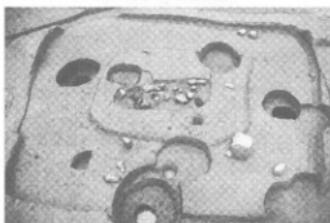
古墳時代後期には竪穴住居が12棟、土壤、溝などが検出されており、遺物の量も多い。竪穴住居のなかには床面の中央付近に鍛冶炉を付設するものもあり、付近の土壤などから鉄器や磁石なども出土していることから、



第1図 調査地点



第2図 繩紋後期面



第3図 古墳時代初頭整穴住居



第4図 古墳時代後期面

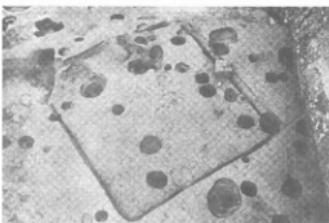
この集落内で製鉄関連の作業がおこなわれていたことは確実である。ほかに鏡形の石製模造品（第8図）なども出土した。

飛鳥時代に属する遺構は、調査区全面で大小のビットが密集して検出され、遺物は古墳後期の遺構面と同様に土器類が多く出土している。おそらく、この時期に集落内の住居様式が堅穴住居から掘立柱建物へ変化したと推測される。この時期の遺物として特筆されるのが骨角製品の鳴鏑と根ばさみ（第8図）である。鳴鏑は未製品で、いずれも柱穴埋土から出土した。

奈良時代に属する遺構は、方形掘り方の柱穴をもつ掘立柱建物が11棟検出された。いずれも2間×2間の柱間で、中央に柱穴をもつ総柱建物ばかりである。この時期に属する遺物はあまりなく、検出された遺構も倉庫と思われるものばかりであることから、当地点がそれまでの一般生活域としての性格からやや異なった土地利用形態へと変化したことが推測される。

平安時代に属する遺構は掘立柱建物が2棟と、土壤が2つだけで、出土した遺物もわずかである。この時期以降集落に関するような遺構は検出されず、水田化されていっている。

まとめ　今回の調査で弥生時代から古墳時代における津島江道遺跡の様相を理解する貴重な資料が多くえられた。とくに堅穴住居内の鍛冶炉やそれに関する遺構や遺物は、平野部における当時の製鉄の様相を理解するための貴重なデータになるものと思われる。また、当調査区の北側に隣接する青年会館部分での調査区で検出された奈良時代の掘立柱倉庫群が、当調査区まで広がってきていることも確認され、当時の倉庫域がかなり広範囲であったことが推測される。このことは、奈良時代における当遺跡の性格が、一般集落に関するものというよりも官衙的な性格のものであったことを推測させられる。また、この調査区では中世の遺構が形成されていなかったため、古代の遺構の変遷が比較的鮮明にとらえることができた。当地域において堅穴住居から掘立柱建物へと住居様式が変化する時期を知る基礎的なデータをえることができた。



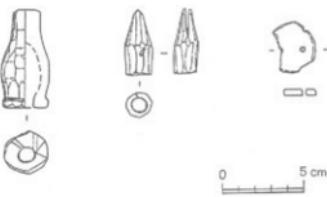
第5図 古墳時代後期堅穴住居



第6図 鍛冶炉



第7図 奈良時代面



第8図 骨角製品、石製品

おかやまじょうにのまる ちゅうでんへんでんしょ
岡山城二ノ丸（中電変電所）跡（中電2次）

所在 地 岡山市内山下1丁目11-101

調査原因 変電所の改築

時 代 中世・近世

調査期間 961118~970321

調査面積 1,075 m²

担当者 神谷 正義・河田 健司

遺跡の概要 本調査地点は旧岡山城二ノ丸の外郭に位置し、家老をはじめとする上級武士の上屋敷地であったと推定される。二ノ丸の地下の基本構造は、現地表面直下には岡山大空襲の焼土層、その下には江戸前期後半から戦前までの遺構面、その下には厚さ数十cmから数mにおよぶ承応3年（1654）の大洪水のものと思われる洪水砂層、その下には幾層かにわたる桃山期から江戸前期前半の生活面が存在する。

調査の概要 本調査地点は近代以降、発電所や変電所、あるいは一部青果市場等が繰り返し建てられ、近世の遺構は、承応の洪水砂以降はもちろんのことそれ以前の遺構面に關しても残りが非常に良くない。調査区内のうち、かろうじて洪水砂から下の面がとらえられるのは北西部と南側の一部のみである。

＜洪水砂直上面＞ 洪水砂以上すなわち17世紀後半から現在にかけての遺構は殆ど残っておらず、わずかに井戸2基と土壤1基が検出されたのみである（第5図）。南東部の井戸は調査前から存在が知られており、中央の井戸も埋土に前の変電所の建物に伴なう造成ガラが入っており、最近まで開口していたものと思われる。掘られた時期はよくわからない。北西部の土壤も遺物が殆どなく、時期は不明である。変電所の造成土の中には、近世半ばから現代までの遺物が混在しており、17世紀半ば以降生活面の高さは殆ど変わらなかったと推測される。

＜洪水砂直下面＞ 洪水砂直下の遺構は暗青褐色粘質土の上に存在する（第6図）。遺構は北西部や南東部に不正円形を呈する砂のつまつたピットや北西部の径20~30cmのピット群がある。また南西部隅には建物の一部と考えられる南北に延びる石列が見られる。この石列は調査区の南側を東西にはしる道路に直交していることから武家屋敷の建物の一部である可能性が高い。また調査区南東部にある井戸は、変電所のガラの中から検出されたものであり、上記の洪水砂直上面の井戸に比較して、石組みや掘り方が古く内部から伊万里等国産磁器が検出されなかったことからこの時期のものとしたが、もう少し古くなる可能性もある。これらの遺構の時期は、洪水が発生する直前の17世紀半ばであろうと考えられるが、次に述べる



第1図 調査地点



第2図 石組み2



第3図 礎石列



第4図 中世土器だまり

真砂造成土上の遺構群と同時期に存在したものかあるいは時期差があるものかどうかははっきりしない。
 <真砂造成土面> これらの遺構群は洪水砂直下の暗青褐色粘質土層の下にある、明橙色粗砂の造成土上に存在するものである(第7図)。この時期の遺構は近世面では最も密度が高く、数多くのゴミ穴、石列、礎石、瓦だまり等から構成される。

ゴミ穴は、調査区のほぼ全体にわたってみられるが、調査区西端と東端にまとまる傾向がある。出土遺物は唐津を中心に、瀬戸・志野・織部・土師器・輸入陶磁器等の陶磁器類、椀を中心とする漆製品、下駄・食器・符模の駒等の木製品、瓦、アカニシを中心とする貝殻等多岐にわたる。

石列は北側を中心にいくつか存在する。北西部にある、2つの石囲いのうち、小さいもの(石組み1)は西にむかって瓦や石の導水路のようなものが見られることから水溜めの可能性がある。大きいものの方は(石組み2)は上に板をのせその上を丸太でおさえたような構造をしており便所の遺構の可能性がある(第2図)。

また北側中央にある石列は、93年に行なわれた北半部の調査で検出された石列の続きと考えられ、建物あるいは築地の基礎部分ではないかと考えられる。

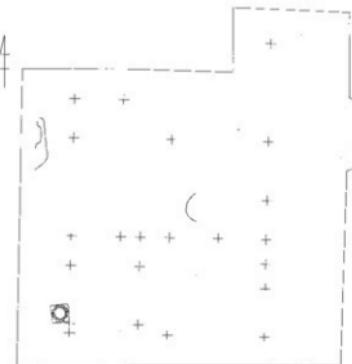
礎石列は南西部で検出されたが大半は石の抜かれた不整形のピット群であり、礎石が残存するものは少ない。建物は2棟復元できた。

瓦溜まりは、いずれも造成ガラを取り除いた段階で検出されており、検出レベルからこの時期としたが、瓦溜まり1の上方には近世中ごろの陶磁器が入っており時期が下がる可能性もある。

この時期の石列および礎石群は北側の道路(あくら通り)や南側の道路(内堀の一部)に対し垂直あるいは平行の軸を持っており、やはり武家屋敷の一部と思われる。時期は16世紀末から17世紀前半としたい。

<真砂造成土直下面> これらの遺構群は真砂造成土の下十数cmのところに広がる暗青褐色の造成土上に広がるものである(第8図)。これらの遺構は多数のピットや溝、礎石列等から構成される。建物は北西部に六本柱の掘立柱建物が1棟と、南端中央に2棟の礎石建物が復元できた(第3図)。

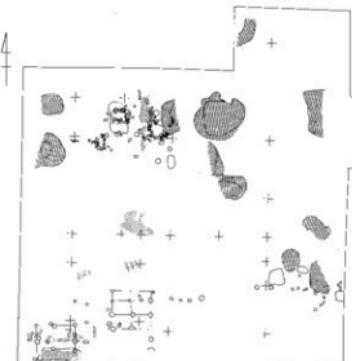
真砂造成土上では数多く見られたゴミ穴はここでは1基みられるだけであり、また礎石以外の石造りの遺構はなく掘立柱の痕と思われるピット群が多い事から、この時期はまだ真砂造成土上に営まれた街に



第5図 洪水砂直上面



第6図 洪水砂直下面



第7図 真砂造成土面

比べて整備が進んでいなかった事が考えられる。しかし基本的には礎石建物も掘立柱建物も南側や北側の道路に対して垂直あるいは平行の軸をもつことから武家屋敷遺構であることは間違いないであろう。

これらの遺構の時期は、遺構の埋土内から唐津が出土しないことや真砂造成土内からも基本的に唐津が出土しないことからみて16世紀末以前であると思われる。

<SD-6対応面> この面の遺構群は暗褐色の造成土を取り除いた時点で検出されたものである(第9図)。SD-6は基本的にこの段階で検出できたものであるが、一部はさらに数10cm下で検出できた部分もあり、また遺構のなかにはSD-6の埋土上に営まれたものもあり時期をさらに細分できる可能性もある。遺構は調査区の中央をほぼ南北に貫くSD-6以外にはいくつかのピットと1基のゴミ穴が検出された。建物は中央部に8本柱の掘立柱建物が復元できた。

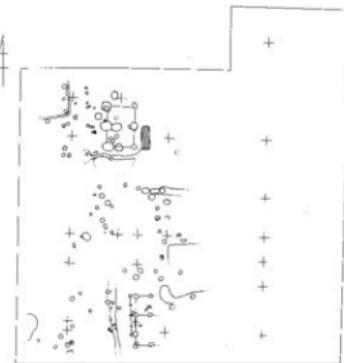
この時期の遺構群は上層のものに比べて少ないが、SD-6や建物は南側の道路や北側の道路に対して垂直あるいは平行の軸を持ち、これらも武家屋敷関連の遺構であると思われる。この遺構の時期は16世紀後半頃としたい。

<中世> 中世の遺構面は、SD-6対応面を数十cm下げた段階で現われる(第10図)。調査区の中央部はかなりの深さまで変電所の建物の影響を受けているため、南端および北端を中心的に部分的に深掘りを行なった。その結果、SD-6にややずれた位置で南北に走る大溝と、その東側にそれに平行する溝、さらにそれに取り付く東西方向の溝を検出した。また北西部には集落の一部と思われる土器の入ったいくつかのピット群(第4図)、南東部には柱穴と思われるいくつかのピット群および礎の集積が認められた。出土した土器からこの遺構群は13世紀と考えられる。

凡例

- ゴミ穴
- 瓦だまり
- 确実積

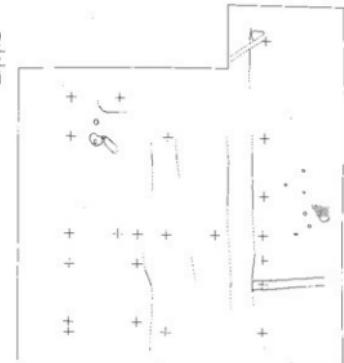
0 10m



第8図 真砂造成土直下面



第9図 SD-6対応面



第10図 中世

まとめ 今回の調査では、岡山城二ノ丸の時代による変遷を捉らえることを目的としたが、思ったよりも遺構の残存状況が悪くそれほど時期を細分することはできなかった。しかし出土遺物や、土層の関連から16世紀後半以降5面の遺構面が捉らえられ大まかな状況は掴めたと思う。

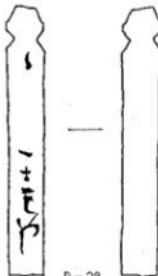
当調査区内に屋敷をかまえていた人物としては、寛永絵図（1632年頃）には福田内膳、慶安絵図（1648年頃）以降のものには、池田伊賀守の名が見える。これら二人の屋敷に対応する面は、真砂造成土面から上の遺構面と思われ、特に真砂造成土面の遺構の密度は他のものに比べ大きいことから、かなり完備した屋敷を形成していたことであろう。

今回の調査では宇喜多氏から小早川氏への政権交代の境目（1600年）、小早川氏から前池田氏への政権交代の境目（1602年）、前池田氏から後池田氏への政権交代の境目（1632年）といったものは遺構の上では捉らえられなかった。また小早川、宇喜多期の住人についても不明のままである。しかし宇喜多秀家時代と思われる真砂造成土直下面で検出された礎石建物の様子から、すでに池田期と似た地割りを持つ城下町が形成されていたことは確かなようである。

コラム 出土物雑感



P-23



P-28

真砂造成土面出土



近世の遺跡を掘っていると、現在でも私たちが使用しているものと、形状の全く変わらない物が出てくることがある。あるいは、より古い時期のものと変わらない物がでてくることもある。調査員を一瞬惑わす厄介者だ。

この武家屋敷の調査でも、新鮮な驚きをもった出土物がある。将棋の駒である。その駒は、黒漆で文字を描いてある。盛りあがって立体感があり、堂々とした筆跡である。文字の様子も現在のものと変わることろがない。この駒は、現在では高級品の部類にはいりそうで、私には手が出せそうにない。おもわずみとれてしまった。

木簡がある。古代の木簡かと当初おもった。たしかに形状は古代の木簡と間違えそうである。しかし、内容は近世の荷札のようなものであった。紛らわしい。

よねだ（米田橋）遺跡

所在地 岡山市米田・神下地内

調査原因 橋梁改良

時代 弥生時代～江戸時代

調査期間 96.11.08～97.03.01

調査面積 784 m²

担当者 高橋 伸二

遺跡の概要 米田遺跡は百間川が大きくカーブする操山丘陵の北東裾部に位置し、百間川の改修工事などに伴ったびたび調査が実施されてきた遺跡である。当該地の周辺でも古墳時代の集落や奈良時代の倉庫群、あるいは中世の橋脚や護岸、貝塚や墓地など多種多様な遺構が確認されている。

調査の概要 調査は、米田橋の改修に伴って整備される、護岸の擁壁部分を対象とした。そのため、調査区は橋の両側の取り付け部である右岸部（米田）と左岸部（神下）とに分けられる。

右岸調査区 当調査区は河川改修で削平された、かつての当麻丘陵と岩間権現宮からのびる尾根にはさまれた小谷の出口に位置する。近代に入って構築された、旧堤防の石垣が調査区のほぼ中央を縱断しており、このため石垣の内側のごく狭い範囲で微高地を確認した。この微高地では、近世の溝1条、中世の溝4条と土坑1基、柱穴2基を確認するにとどまった。さらに下層では、平安時代後期頃と推定される、溝1条と土坑1基を確認した。また、平安期以前においては、湿地が広がる状況が確認され、弥生時代から古墳時代にかけての遺物の混入がみられる。

左岸調査区 当調査区は、北側からのびてくる微高地の南端部に位置すると推定され、近世の溝2条、土坑2基、中世の溝1条と土坑1基、さらに旧河道と推定される斜面堆積を確認した。また、さらに下層については確認作業を行ったものの、遺構、遺物の確認にはいたらず、当該地での微高地の形成は、平安時代末から中世初頭の時期であると推定される。

まとめ 今回の調査では、限定された調査区内で、さらに近現代の河川改修により地形が大きく変更されてはいたものの、中世の微高地と、若干ではあるがそれに先行する時代の遺構も確認することができた。また、当該地の周辺ではさらに調査が進展しており、今後はそれらの調査成果をふまえたうえで、中世集落の面的な広がりとその周辺の状況を明らかにしてゆく必要があろう。



第1図 調査地点



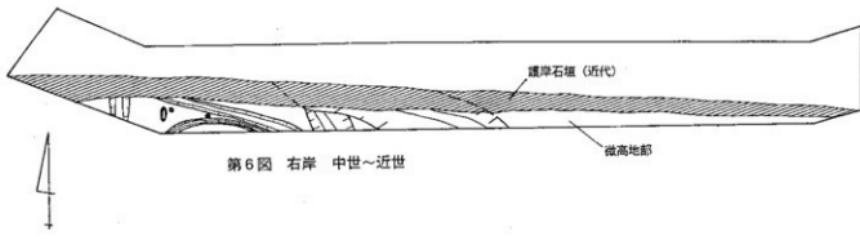
第2図 右岸・中近世の遺構



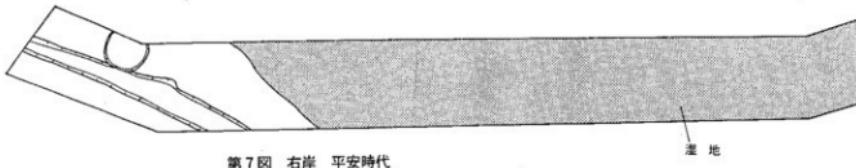
第3図 右岸・平安時代の溝



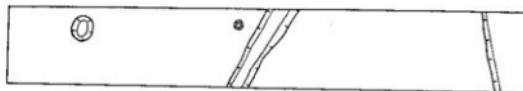
第4図 左岸・中世の遺構



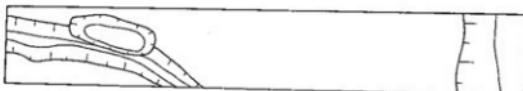
第6図 右岸 中世～近世



第7図 右岸 平安時代



第8図 左岸 近世



第9図 左岸 中世

0 20m

おか やま じょう ほん まる うち ぱり
岡 山 城 本 丸 内 堀

所在 地 岡山市丸の内二丁目6-2・95-1

調査原因 史跡整備（浚渫）に伴う確認

時 代 近世

調査期間 961217~970331

調査面積 13,586 m² (実質 55 m²)

担当者 乗岡 実

遺跡の概要と調査の経緯 岡山城は現在の市街地発展の礎となつた城郭である。近世岡山城の基本構造をなしたのは宇喜多秀家で、慶長2年（1597）に完成したと伝えられている。その後、小早川秀次や池田氏も整備改修を行い、寛永年間頃までに完成した。本丸は旭川の西岸にあって、主に西および南に郭や城下町が展開する。本丸の段構造はもとの丘地形を埋め込んだもので、内堀を隔てた西方の石山にも高低差を持った郭群が展開する。本丸一帯は国史跡に指定され鳥城公園としても市民や観光客に親しまれているが、内堀の水質悪化対策と史跡整備の観点から、その浚渫を実施する運びとなった。事前調査を受け、本年度は浚渫工事と並行して、本丸の西側内堀の構造調査を実施した。浚渫最深部の高さは概ね昭和9年の洪水直前の堀底レベルに設計したため、その掘削前面から、ごく小面積の試掘坑を設定し、本来の堀底の確認に努めた。合わせて、現状で露出している石垣の観察を行った。

調査の概要 石垣前面には3か所で試掘坑が設定できた。堀の南辺部の試掘坑では、標高-0.8m付近に築石最下端があり、その下に捨石層、前面に護岸の石組を伴っていた。南辺石垣は矢穴が多く傾斜も急で新相である。東辺南端部の試掘坑では、石垣最下段の築石下面は標高-0.8mにあって、下には桐木が確認された。最下段築石の前面は円錐で埋め戻され、標高-0.3mの堀底をなす。その上には厚さ0.5~0.7mのシルト・微砂が堆積し、上面が明治維時の堀底とみえて、石垣上の檐からの転落と思われる瓦が堆積していた。基本的には高さが7m余りであることが確認できた東辺石垣は、自然石を緩傾斜に積んで古相である。東辺半ば南寄りの入角部の試掘坑では、南の地盤軟弱部から続く桐木が終り、風化岩盤が急激に盛り上がりて築石が直接載る構造に変化する。東辺半ばでは、石垣基底と風化岩盤は標高3.0mにまで高くなり、その西方の堀中央の試掘坑では標高-0.2m内外で風化岩盤面による堀底が確認され、石垣基底は北に再び下がっていくから、一帯は本丸のある岡山と石山の鞍部に相当することが判る。

東辺のさらに北寄りでは、直線に延びる現役石垣面中に旧隅角が確認でき、宇喜多期の内堀は後の時期より南方で東に折れる異なったプランを持っていた可能性が窺える。

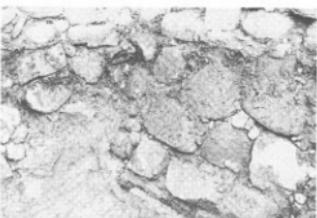
事実上の発掘面積や実働日数は僅かであったが、堀底の深さの確定だけではなく、内堀の変遷や旧地形に応じた石垣構造の偏差について、重要な知見を得ることができたといえよう。



第1図 調査地点



第2図 東辺南端の石垣基部



第3図 東辺半ば南寄りの石垣基部



第4図 東辺半ば北寄りの石垣と地山

おたみさんようでんけん 乙多見（山陽電研）遺跡

所在地 岡山市乙多見

調査期間 960527~960617

調査原因 工場新築

調査面積 103 m²

時代 弥生時代

担当者 高橋 伸二・河田 健司

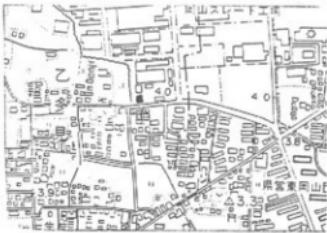
遺跡の概要 乙多見遺跡は旭東平野の東部の沖積地に位置する。これまで、まとまった調査は実施されなかつたものの、周辺地域での立会い調査などにより、その広がりが明らかになりつつある。

調査の概要 今回の調査は、事前の試掘の結果、敷地の東よりに位置する新築される建物の本体部分は湿地状の堆積が広がり遺構の存在が確認されなかつた。そのため、敷地の最も西よりに位置し微高地の存在が確認された浄化槽部分を対象に発掘調査を実施した。

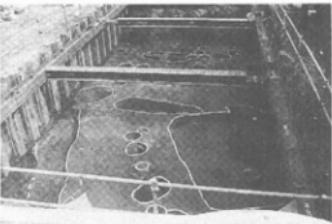
調査はまず掘削機械により、造成土と造成以前の水田耕土を除去した後、遺構の確認作業を実施した。その結果、近世水田の耕土の直下に明確な微高地基盤土の存在が確認された。基盤土上面の遺構はおむね弥生時代中期後半から後期前半のものであったが、少量ではあるが中世の土師質土器と備前焼もみられた。

遺構は、住居跡1軒、溝1条のはか土坑と柱穴が多数検出されたが、溝より東側については、遺構が認められないことなどから、本調査区付近が西側から東にむかって落ちる微高地の末端部分であると推定された。

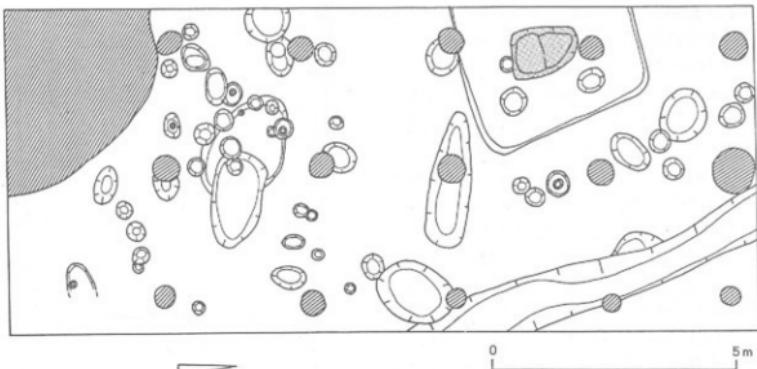
まとめ 今回の調査は、小面積であったにもかかわらず、住居跡をはじめとする高い密度の遺構が検出されたことから、周辺部、特に西側への集落の広がりが予想された。また、この微高地が中世から近世にかけて水田化されていることが確認された。



第1図 調査地点



第2図 調査区全景



第3図 遺構平面図

びぜんこくふすいていちみなみこくちょう 備前国府推定地(南国長)遺跡

所在地 岡山市国府市場字南国長56-4他 調査期間 960411~960417
調査原因 集合住宅の建設
時代 弥生時代~中世 調査面積 2,314.22m²
担当者 河田 健司

遺跡の概要 当調査地点は備前国府推定域内の西側にあり、1991年度に行なわれた高島公民館新築工事に伴なう発掘調査や、周囲における立会調査の様子から、この地点にも平安時代を含む濃密な遺構の存在が予想された。

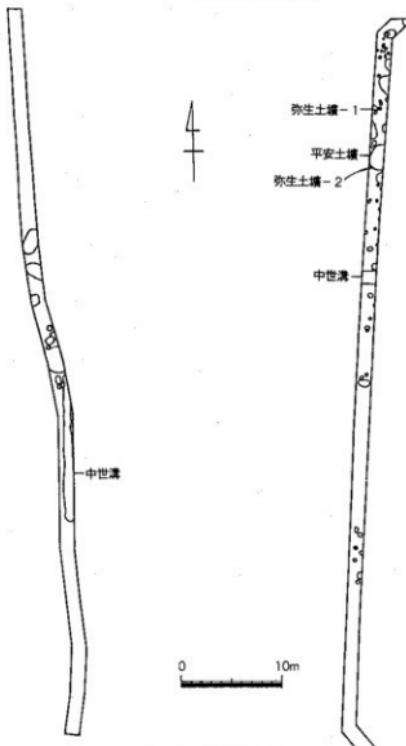
今回の調査は、集合住宅の建設に伴なう擁壁工事と並行して行なわれた。しかしながら本調査は工事立会であったため、重機のあとから遺物を採取し略図をとる調査しかできなかったことは残念である。

調査の概要 今回の調査地点の現状は水田であり、現地表面より30~40cm下から、土器を多量に含んだ暗褐色の包含層があらわれ、さらにその20~30cm下に弥生から中世に至るまでの遺構ののってくる橙褐色砂質土の基盤層が現れる。本工事の掘削深度は約50cmであり從って掘り方の底は基盤層直上あるいは包含層中でとまるものと推測された。掘り方は、幅1.5m、総延長143mと非常に細長く全体の様相は把握しがたいが、全体に包含層あるいは橙褐色砂質土がみられ、微高地にあると判断される。遺構は北半分に多いが、これはこの付近の地形が北から南へ向けて緩やかに下だっており、南側は掘削が包含層中で止まり遺構検出ができなかった部分があるためである。遺構は中世が主であり、すべて同一面で検出される。

弥生時代 弥生時代の遺構は、いくつか存在するものと考えられるが、完掘できたものは東側のトレンチの北方にある弥生土壤1と2のみである。弥生土壤1は長軸70cm以上短軸65cm深さ38cmをはかる(第3図)。端がトレンチの肩にかかるが、梢円形の土壤であると考えられる。埋土は2層であり堆積の状況からみて自然に埋没したものと思われる。土器はいずれの層からも出土しているが、図化できたのは、第6図のものである。弥生土壤2は平安土壤に切られる形で存在する直径30~40cmの梢円形と思われるピットである。出土



第1図 調査地点

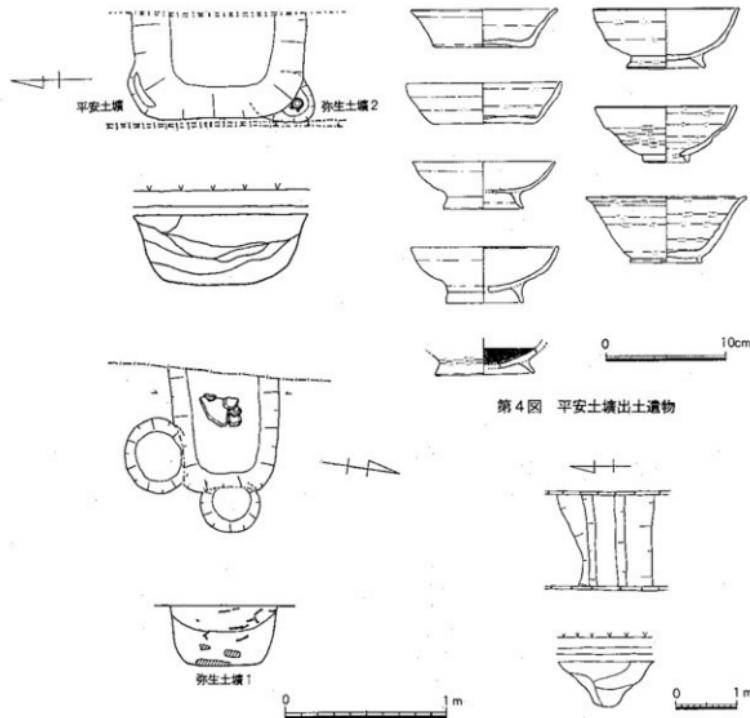


第2図 遺構平面図

遺物の内図化できたのは第7図のものである。時期は出土した土器からみて、弥生後期後葉と考えられる。また弥生土壙1からは特殊壺が出土している。

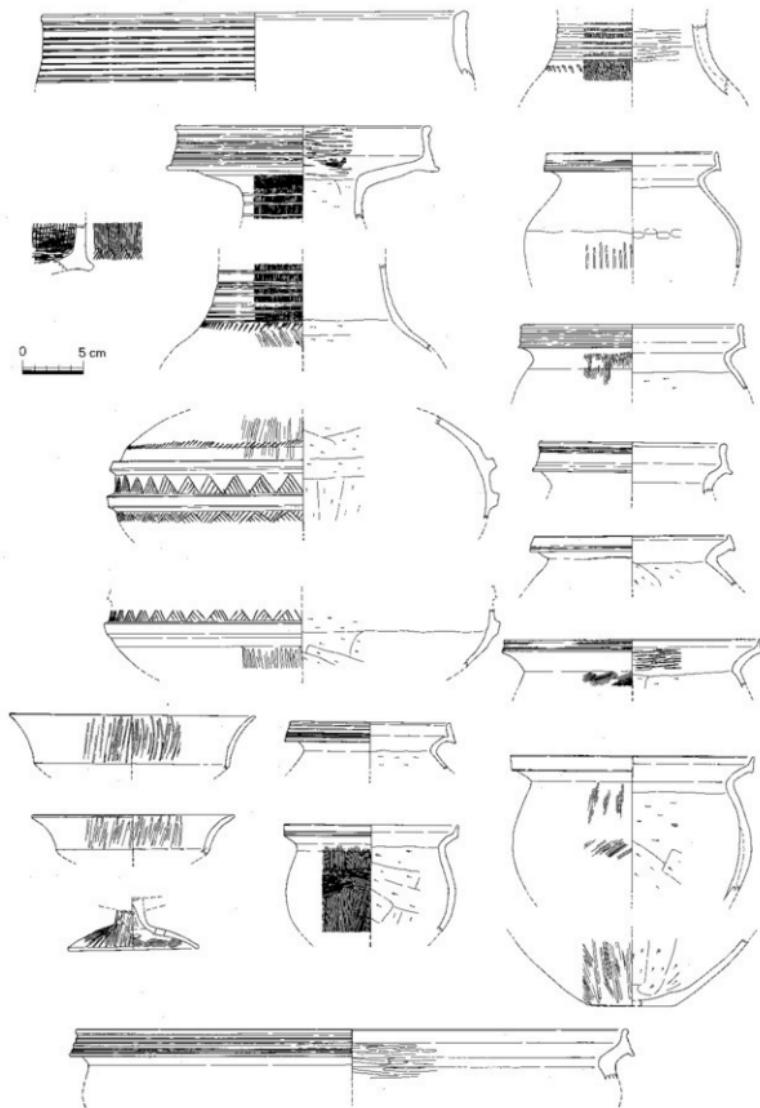
古代 古代の遺構は、東側トレチの北半分に集まる傾向にある。遺構で完掘できたものは中央やや東よりに位置する平安土壙1および平安土壙2である。平安土壙1は東側を調査区の肩に切られているが、縦2.2m、横1.5m以上、深さ0.86mの長方形あるいは正方形の土壙である。埋土は7層であり、堆積状況から2/3程自然に埋没した後一度に埋められたと考えられる（左上最上層は中世の遺構埋土）土器はおもに3層と6層から出土している。図化できたものは第4図のものであり、やや古いものも見えるが大まかに見て10世紀から11世紀と考えられる。

中世 中世の遺構は、調査区の大半を占める遺構である。弥生および古代の遺構と同じ微高地上でもより標高の高い北端に集中するのに対し中世では低い南側にも遺構がびびていくのが観察され、古代の集落にくらべて範囲が拡大したことが考えられる。全体に柱穴と思われる径20cm程度のピット群と溝で構成されている。溝は、東側のトレチでは東西に、西側のトレチでは南南西から北北東にのびており、トレチの間でL字型につながる可能性もある（第5図）。柱穴と思われるピット群は、深さ20cm程度の物が多く、また調査区の幅が極端にせまいため建物の復元はできなかった。出土した他の器型からみてこの遺構は13世紀を中心とするものと考えられる。

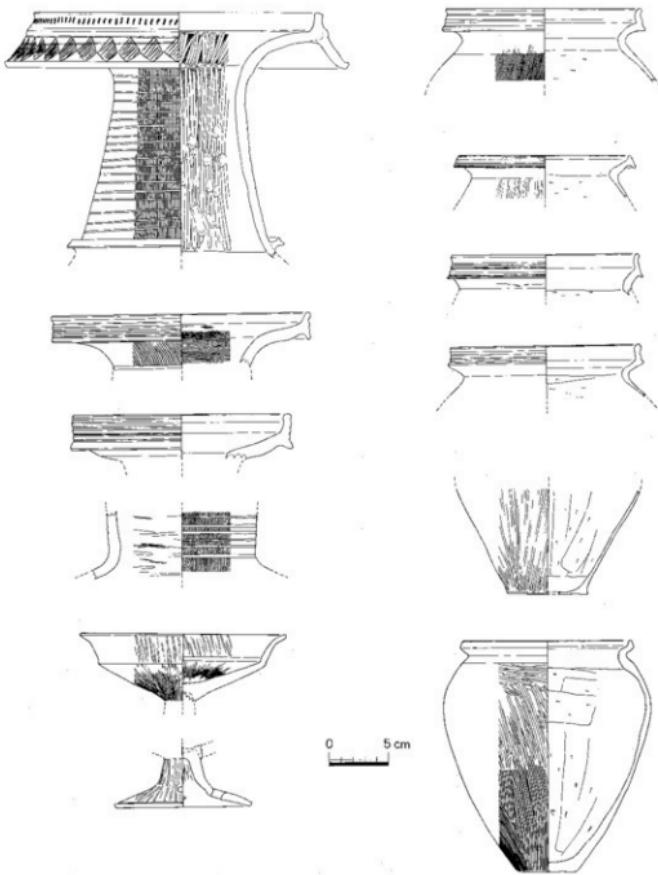


第3図 平安土壙および弥生土壙1・2

第4図 平安土壙出土遺物



第6図 弥生土墳-1 出土遺物



第7図　亦生土壤-2　出土遺物

まとめ　今回の調査は、幅1.5m、長さ数10mという調査区であったにもかかわらず、弥生、古代、中世の3時期の遺構を検出することができた。上でも述べたようにこの場所は備前国府推定域の西端にあるが、国府との関連が高いと考えられる古代の遺構は、全てを完掘したわけではないが、中世の遺構と比較してもあまり多くはないと思われる。

この部分で検出された平安時代の遺構は分布状態からみて中心はこの場所の北側にあると考えられる。

II. 埋蔵文化財関連の協議と調整

最近は、大規模な開発やビル建築の計画段階から、埋蔵文化財関係で協議を行うことの必要性が浸透してきている。行政的な指導が行いやすい環境になってきているのは結構のことである。しかし、小規模な開発やビル建築で、計画が確定して設計変更が困難な状況下で、埋蔵文化財の問題が発現する事例も後を絶たない。また、行政指導の内容にも、絶えずこれでよいのだろうかとの迷いを感じてあたっている。周知の遺跡内での土木行事はすべて発掘調査する、と判断し指導するのは容易である。そう判断し即発掘調査に入る体制が整っている。そういう職場にしていきたい。そうすれば、保存にむけても強力に発言できるようになるかもしれない。

岡山市では開発行為事前指導及び建築確認申請時にも、埋蔵文化財の存在状況に関する助言及び指導を行っている。その内容・協議次第で、立会・確認調査・試掘調査・設計変更等の指導を行い、最後の手段として発掘調査を計画・実施する。

1996（平成8）年度は、建築確認申請時に299件の相談があり、そのうち立会119件・試掘16件に対応した。この数値は調査員が調査体制と現実との狭間で、苦惱してきた結果である。

その協議の家庭において、文化財保護法に基づく提出書類の遅延・伝達事務がある。岡山市教育委員会で取り扱った埋蔵文化財発掘の届出・通知等（直管分を含む）の一覧を表示しておく。なお、一覧は文化課受付日において年度の区分けをしている。

埋蔵文化財発掘の通知（第98条の2）	6件
埋蔵文化財発掘の通知（第57条の3）	24件
埋蔵文化財発掘の届出（57条）	2件
埋蔵文化財発掘の届出（57条の2）	36件
史跡現状変更許可の申請（第80条）	4件
遺跡発見の届出・通知（第57条の5・6）	2件

このほか、市内で行われた発掘調査として以下の遺跡がある。詳細は「岡山県埋蔵文化財報告27」（岡山県教育委員会 1997年）に紹介されている。

- ・百間川米田遺跡（旭川放水路河川改修に伴う発掘調査）
- ・田益田中遺跡（国立岡山病院建設に伴う発掘調査）
- ・田益田中遺跡（篠が瀬川調整池建設に伴う発掘調査）
- ・原尾島遺跡（雇用促進住宅岡山宿舎建設に伴う発掘調査）
- ・藤原遺跡（岡山陸運支局検査場改修事業に伴う発掘調査）
- ・天瀬遺跡（岡南共同溝建設に伴う発掘調査）
- ・北方地蔵遺跡・中溝遺跡・中井散布地（都市計画道路万成国富線建設に伴う発掘調査）
- ・津寺一軒家遺跡（主要地方道箕島高松線改良工事に伴う発掘調査）
- ・高松沼田遺跡（県立高松農業高校産業教育実習棟改築に伴う発掘調査）

埋蔵文化財発掘の通知（第98条の2）

名称および種類	所 在 地	面 積	目 的	主 体 者	期 間
津島道跡 集落跡・生産道路	岡山市いずみ町地内	21.12m ²	水道管布設工事に伴う発掘調査	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	960715 ～960816
乙多見道跡 敷 布	岡山市乙多見449番地	92.72m ²	事務所建設	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	960617 ～9607末
上沼道跡 敷 布	岡山市高松原占才字上沼548番地	175m ²	合併処理浄化槽設置	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	960715 ～960830
津島江道跡 集落跡・官衙跡	岡山市津島東一丁目1番1号	525m ²	学校校舎建設	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	960826 ～970331
三野宮之段道跡 敷 布	岡山市三野一丁目2-1	96.0m ²	水管試験所建設工事	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	970406 ～970630
津島道跡 集落跡・生産道路	岡山市いずみ町地内	133.3m ²	下水管布設	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	9703末 ～9705末

埋蔵文化財発掘の届出（第57条）

名称および種類	所 在 地	面 積	目 的	主 体 者	期 間
津島岡大遺跡 集落跡	岡山市津島中一丁目1番1号	58.00m ²	岡山大学（農業）動物実験施設新設	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	960507 ～960524
津島岡大遺跡 集落跡	岡山市津島中三丁目1番1号	1,310.00m ²	岡山大学環境理工学部校舎新設工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	960520 ～970131

埋蔵文化財発掘の届出（第57条の2）

名称および種類	所 在 地	面 積	目 的	主 体 者	期 間
沼城館跡	岡山市昭字古城跡1748-1、 1748-2-1799-1-1381番地	2,352.13m ²	公認の共同利用設備の整備	岡山市横原466岡山市上通 支所内 上道地区地域振興事業 実行委員会会長 齋松久和	960626 ～970331
上伊福立花遺跡 集落跡	岡山市伊福町一丁目20-12	2,514.46m ²	工場	岡山市伊福町一丁目20番12号 岡山トヨペット株式会社 取締役社長 木長範純	9606末 ～9610末
津島道跡 敷 布	岡山市宇南町二丁目213-3、 213-4、213-5	797.72m ²	共同住宅	岡山市宇南町二丁目10-28 野野光秀	960702 ～961002
岡山城二の丸遺跡 集落跡	岡山市内山下二丁目8-7	123.97m ²	住宅	岡山市内山下二丁目8-7 早川芳子	960610 ～961031
名称未定跡 敷 布	岡山市津寺字雲山883-1	210m ²	携帯・自動車電話無線基地局 の新設	広島県西区二丁目6番2号 13・13・?中國移動通信 株式会社 新田脩	960525 ～960831
庄瀬道跡 敷 布	岡山市庄瀬町466、466-1、 469-3	245.45m ²	共同住宅	岡山市番町二丁目8番10号 山口順一	960620 ～9611末
乙多見道跡 敷 布	岡山市乙多見449番地	8088.32m ²	事務所建設	岡山市乙多見449番地 山陽電研株式会社 取締役社長 鹿森 正	960615 ～961015
上伊福道跡 敷 布	岡山市伊福町三丁目22	214.94m ²	住宅建設	岡山市中町一丁目1-43 広田大治	960720 ～970120

馬 桶 道 路 散 布 路 地	岡山市赤田115-1	961.73m ²	共同住宅2棟	岡山市赤田277 松本 美
赤 田 西 道 路 社 寺 路 地	岡山市小山字馬描い91番1、 91番6、91番7	1,156.08m ²	ガソリンスタンドの建設	広島市中区鉄砲町8番18号 コスモ石油株式会社 広島支店店長 徳永 隆 980801 ~981101
中 濑 道 路 北 方 地 域 道 路 集 落 路 地	岡山市南方二丁目218番2地 先から大和町二丁目267番4 地先まで	約500m ²	送電線用管路の布設(埋設)	岡山市山下一丁目4番9号 中国電力株式会社岡山支店 取締役支店長 板谷晃 980828 ~980931
津 島 道 路 生 産 道 路	岡山市学南町二丁目139-13	192.29m ²	共同住宅	岡山市大庭85・大庭85・大庭 96-26 片山通人・片山良子・森脇祐謙 960820 ~970228
津 島 道 路 集 落 路 地	岡山市学南町二丁目814-1	206.34m ²	共同住宅	岡山市学南町二丁目5番13号 北村 実 961001 ~9701未
北 方 地 域 道 路 生 産 道 路	岡山市大和町一丁目266-2、 266-5、266-6	726.31m ²	共同住宅	岡山市大和町一丁目266-2 小野田吉夫 980820 ~970228
南 方 道 路 集 落 路 地	岡山市南方一丁目6-110	145.96m ²	共同住宅	神戸市西区学園西町5-27 水田博章 961020 ~970128
上 伊 福 西 道 路 散 布 路 地	岡山市京山二丁目1384-5	983.04m ²	共同住宅	倉敷市西阿知町新田379番地 の9 ブリード湯谷株式会社 代表取締役 湯谷秋則 961021 ~9703未
上 伊 福 通 路 集 落 路 地	岡山市伊福町二丁目345-10	184.72m ²	共同住宅	岡山市大安寺東町23-25-2 岡 朋子 981115 ~970331
南 方 道 路 散 布 路 地	岡山市岩田町4番103号	5,985.44m ²	遊歩場(バチンコホール)建 設工事	岡山市駅前町一丁目2番4号 有限会社ジオラカバ 代表取締役社長 千原行喜 9610中 ~9704中
乙 子 城 路 城 館 路 地	岡山市乙子174番地外	49.5m ²	遊歩道の整備、解説板、ベン チ、誘導板の設置	岡山市神崎町2127 乙子城跡を復興する会会長 奥山治刀 961013 ~961113
津 島 道 路 散 布 地・集 落 路	岡山市学南町二丁目161番1	203.84m ²	住宅	岡山市藤田564-227 中下秀正 9610未 ~9702未
津 島 道 路 集 落 路・生 产 道 路	岡山市学南町二丁目165-1、 166-1	200.15m ²	共同住宅	岡山市学南町二丁目6-13 有斐会社平和グラート 代表取締役 中田早苗 961115 ~970315
津 島 道 路 集 落 路・生 产 道 路	岡山市学南町二丁目866-6、 866-1の一筋	475.29m ²	共同住宅	岡山市学南町二丁目8-28 片山基義 ~970320
北 方 前 田 通 路 散 布 路 地	岡山市北方一丁目664番3	270.72m ²	共同住宅	岡山市中井189-31 藤本和久 961215 ~970331
津 島 道 路 集 落 路 地	岡山市絵岡町596-1	587.48m ²	住宅	広島市佐伯区美姫が丘南二丁 目4-15 森田公明 970114 ~980110
絵 园 道 路 散 布 地・集 落 路	岡山市南方五丁目1386	1,298.07m ²	講堂解体建替	岡山市津島町二丁目10番1号 学校法人吉備学園 理事長 井尻裕 970120 ~970430
北 方 地 域 道 路 生 产 道 路	岡山市大和町二丁目286-4	132.31m ²	共同住宅	岡山市山崎161-4 足田順平・足田順子 970127 ~9703未
南 方 道 路 集 落 路 地	岡山市南方一丁目2-104、 2-130	625.91m ²	事務所建設	岡山市厚生町三丁目1番15号 (岡山商工会議所内) 岡山税理士協同組合 理事長 姫井健次 970215 ~970515
大 田・小 田 山 城 館 城 館 路 地	岡山市草ヶ部字小瀬1815-35、 -53、-83、-89のそれぞれの一 部	8,424.31	土砂採取・残土捨て場	岡山市長岡469-4 オカケン工業 代表者 岡 勝彦 970120 ~2020120

津島（岡大）道路 集落跡	岡山市津島福原二丁目1番地 先	9.18m ²	ガス管引き込み工事	岡山市桜橋二丁目1番1号 岡山瓦斯株式会社 取締役社長 岡崎 邦	9703 ~9753
東岡山道路 敷地	岡山市長岡537-2、537-3、 538-2	999.51m ²	共同住宅	岡山市長岡243 吉田賢吾	970217 ~970720
津島道跡 集落跡・生産道路	岡山市いづみ町地内	133.3m ²	下水道埋設工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9703末 ~9803末
高松（沼田）道路 集落跡	岡山市高松字上手後107番2外 3筆	5,559m ²	専用住宅用地分譲造成工事	岡山市内山下一丁目12番3号 株式会社国土開発総合企画 代表取締役 石川順一	970420 ~971031
南方道路 集落跡	岡山市国体町1360-9、10、 11、16	465.47m ²	共同住宅	岡山市幸町6-26 大村守人	970401 ~971231
津島江道道路 集落跡	岡山市津島二丁目7-1	840.75m ²	診療所増設	岡山市津島二丁目7-1 医療法人幸和会岡北整形 外科医院理事長 越宗幸重	970425 ~970830
吉井廣寺跡 社	岡山市吉井210-6外3筆	1,289m ²	病棟の増築	岡山市吉井208番地 医療法人誠会吉井川病院 理事長 日野八朔行	970519 ~9705末

埋蔵文化財発掘の通知（第57条の3）

名称および種類	所在地	面積	目的	主体者	期間
津島岡大道路 集落跡	岡山市津島中三丁目1番1号	810.00m ²	岡山大学環境理工学部校舎 新宮工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	971101 ~980315
津島道跡 集落跡・生産道路	岡山市いづみ町地内	285.00m ²	配水管埋設工事	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長 速藤嘉昭	9808 ~9810
古野口道路 集落跡	岡山市吉備津1444	27.30m ²	体育倉庫・門・水道工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	960603 ~960715
南方道路	岡山市南方一丁目6-7地先か ら南方一丁目8-2地先まで	141.88m ²	岡山市上水道配水管整備計 画による配水管埋設工事	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長 速藤嘉昭	960725 ~981130
上沼道跡 敷地	岡山市高松原古才字上沼584 番地	175m ²	合併処理浄化槽設置	岡山市高松原古才587番地 岡山市病院事業（吉備病院） 岡山市長 安宅敬祐	9612 ~970930
原尾島道跡 生産道路	岡山市原尾島二丁目380地先 から原尾島500番1地先まで	289m ²	操山北幹線配水管埋設工事 (1工区)	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長 速藤嘉昭	960815 ~970131
津島江道道路 集落跡・官邸	岡山市津島東一丁目1番1号	525m ²	学校校舎建設	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	960801 ~970331
津島（岡大）道路 その他の道路	岡山市津島福原一丁目2074 -3	45.05m ²	污水管理設工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	970520 ~970730
岡山城跡二の丸遺構 城館跡	岡山市丸の内一丁目2番12号	13.927m ²	給水管埋設工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	960901 ~960907
鹿田遺跡（包含層） 集落跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	173m ²	岡山大学医学部正門Cゲー ト監視ボックス取設工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山市大字 小坂二度見	960819 ~960821
栗井大塚古墳ほか 集落跡	岡山市栗井2324番地先から 西山内108番地先まで	451m ²	配水管埋設工事	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長 速藤嘉昭	960930 ~961225
中瀬道跡 北方地蔵道跡 集落跡・生産道路	岡山市学南町三丁目地先から 大和町二丁目地先	85m ²	水道・ガス管理設工事	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長 速藤嘉昭	961101 ~961220

原尾島遺跡 生産遺跡	岡山市原尾島676-2地先から原尾島900-1地先まで	98.25 m ²	配水管設工事	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	961101 ~970228
原尾島遺跡 生産遺跡	岡山市原尾島四丁目10-12 から674-1	111.25 m ²	ガス管移設・新設工事	岡山市桜機二丁目1番1号 岡山瓦斯株式会社 取締役社長 岡崎彬	961101 ~970228
三野宮之段遺跡 散布地	岡山市三野一丁目2-1	938.14 m ²	水質試験所建築工事	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	9704中 ~9810下旬
田益遺跡	岡山市田益1244-5地先から 當原3179地先まで	155.0 m ²	岡山市上水道配水管整備計 画による配水管設工事	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	961101 ~961220
津寺遺跡 集落	岡山市津寺258-1	340 m ²	道路擁壁工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9610 ~970331
高松遺跡 散布地	岡山市高松183-2	60 m ²	道路し型水路	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9612 ~970331
政所遺跡 集落	岡山市加茂1343-1	210 m ²	道路水路工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9610 ~970331
津寺遺跡 集落	岡山市津寺412-4	100 m ²	道路擁壁工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9612 ~970331
高松遺跡	岡山市高松7-1地先から高 松31-13地先ま	300.0 m ²	岡山市上水道配水管整備計 画による配水管設工事	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	970410 ~970331
朝霞鼻貝塚 貝	岡山市津島東二丁目・三丁目	380 m ²	道路拡幅改良・汚水管設工 事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	970331 ~970331
鹿田遺跡(包含層) 集落	岡山市鹿田町二丁目5番1号	350 m ²	岡山大学医学部グランド南 歩道改修その他工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	970213 ~970328
津島遺跡 生産遺跡(水田等)	岡山市津島新野一丁目	25.4 m ²	下水道管の設置	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9703末 ~9803末

遺跡発見の通知(第57条の6)

名称および種類	所 在 地	面 積	目 的	主 体 者	期 間
名 称 未 定 集 落	岡山市津島中二丁目1番1号		試掘調査	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	960318
名 称 未 定 そ の 他 の 遺 跡	岡山市津島福居一丁目 2074 - 3		市道津島中1号線道路改良工 事による道路拡幅のため	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	960926 ~970331

史跡現状変更許可申請(第80条)

名称および種類	所 在 地	面 積	目 的	主 体 者	期 間
岡山城跡 史	岡山市丸之内二丁目3番ノ 901ほか			岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	970417 ~970421
岡山城跡 史	岡山市丸之内二丁目3番ノ 901		「96フルーツマーケット」開 催のため	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	960708 ~960809
神宮寺山古墳 史	岡山市中井町一丁目707			岡山市中井町一丁目707 宗教法人天計神社 代表教員 見堀安邦	着手の日 ~961010
岡山城跡 史	岡山市丸之内2-1-3		第6回観能実施の為の舞台の 設営	岡山市浜三丁目7番15号 山陽放送株式会社営業 取締役営業局長 須原邦治	960925 ~960927

III. 普及・啓発事業と刊行物

岡山市教育委員会は、普及・啓発事業の一環として、文化財保護強調週間にあわせた埋蔵文化財速報展を開催している。また、発掘調査の進捗状況に応じて現地説明会も適時開催している。しかし、今年度は、現地説明会を開催することができなかった。遺跡の内容や調査期間など、開催の容易でない様々な状況があるのであるが、開催しないことは普及啓発活動を軽視しているといわれても弁解の余地はない。現地説明会開催にむけ努力していきたい。この頁の余白が埋まるように努力していきたい、と前回の概要を記した。

報告書・普及書の刊行は、普及・啓発事業の大切な仕事の一つであり、文化財係の主要な仕事の一つでもある。しかし、この分野で相変わらず立ち遅れているのが、当市の実情である。この頁の余白が埋まるように努力していきたい、と毎回この概要に記している。さて、今年度はいかほど埋められたか。

96年度の事業の実施は以下の通りである。

埋蔵文化財速報展'96

1996年10月31日～11月7日 岡山市役所1階市民ホール

過去1年間に調査を実施した遺跡を紹介した。特に岡山城・三手遺跡・南方遺跡等が展示の中心となった。

岡山城築城400年記念事業「岡山城と城下町－発掘から垣間見るお城と城下町」展

1997年1月6日～1月26日 岡山城築城400年インフォメーションセンター 5階展示場（旧農政局跡地）

岡山城築城400年記念事業にあわせて、発掘調査してきた成果、出土物、説明板等で系統的に展示した。

刊行物

「岡山市埋蔵文化財調査の概要 1995（平成7）年度」

「吉野口遺跡」

鷺山小学校給食棟建築事業に伴う発掘調査報告書。縄文時期から近世にわたる各時代の遺構を検出、多大の成果をおさめた遺跡。なかでも、縄文時代晩期の住居跡の検出や妹尾太郎兼康とおぼしき頭骨を検出したとして注目を集めた。

「史跡岡山城発掘調査報告」

1～4次にわたる発掘調査報告書。中の段を中心とした発掘報告書。岡山城築城の変遷を解明している。また、瓦の研究から、岡山城下における瓦生産を復元考察。

「岡山県指定名勝近水園（吟風閣）保存修理工事報告書」

吟風閣修理の概況が紹介されている。

「岡山市の近世寺社建築」

平成6・7年度に実施した市内における寺社建築の悉皆調査の報告書。市内の寺社建築の一覧表示と概要が要領よくまとめられている。



埋蔵文化財速報展 '96 I



埋蔵文化財速報展 '96 II



400年岡山城 I



400年岡山城 II

IV. 受領図書一覧

各地の教育委員会及び研究機関から交換図書あるいは寄贈図書として、毎年多くの報告書が岡山市教育委員会に送付されます。それらは、芳田収蔵庫に整理保管しており、発掘調査を進めるうえで適宜参照し活用させていただいている。受領図書一覧を掲載する事によってそのご厚情に感謝の意を表させていただきます。送って頂いている各教育委員会及び研究機関の方々にお礼申し上げます。

凡 例

県名（県コード）

所属機関

報告書名（シリーズ名） 発行年月日

（財団法人は「財」、シリーズ名における市名・教育委員会名は「市」と省略、また埋蔵文化財は「埋文」と省略しています。）

北海道（01）	群 馬（10）
東京大学大学院人文社会系研究科・文学部考古学研究室	高崎市教育委員会
・常呂研究室	山名原口I 遺跡（市文化財調査報告第99集） 9603
ライトコロ右岸道路	平成5年度高崎市内小規模埋文緊急発掘調査概要第137集 950331
	高崎市内遺跡発掘緊急発掘調査報告書10（同上第139集） 960329
	平成7年度高崎市内小規模埋文緊急発掘調査概要（同上第140集） 960328
	真町I 遺跡（同上第141集） 960329
	福町II 2遺跡（同上第142集） 960329
	寺尾東館I・II・III遺跡（同上第143集） 960331
	並木北II・III・IV・V遺跡（同上第144集） 960329
	下中野I 遺跡（同上第145集） 960329
	東町V 遺跡（同上第146集） 960329
福 島（07）	高崎市遺跡調査会
会津若松市教育委員会	上大野町地主遺跡（市遺跡調査会報告書第35集） 960331
若松北部地区保険は場整備事業発掘調査概報IV	宋町I 遺跡（同上第43集） 960329
－平成7年度－（市文化財調査報告第46号）	矢中村西I 遺跡（同上第44集） 960329
大戸窓・南原49号窓跡（同上第47号）	倉賀野中里I 遺跡（同上第45集） 960329
会津総合運動公園発掘調査概報V-1981(平成3)-1992(平成4)	上並木橋古墳（同上第46集） 960329
-1994(平成6)年度遺跡概要報告書（同上第48号）	双葉町I 遺跡（同上第48集） 960325
会津若松市教育委員会・堂ヶ作山谷填柵調査团	下小島町頭II 遺跡（同上第49集） 960325
堂ヶ作山谷 -1990・91・94年度発掘調査の記録－	下之城村前II 遺跡（同上第50集） 960329
(同上第50集)	中尾村前V 遺跡（同上第51集） 960325
(財)いわき市教育文化事業団	
いわき市教育文化事業団年報6（平成6年度）	
大平B遺跡・大平C遺跡古代集落・近代屋敷跡の調査	
－常磐自動車道連絡調査報告7－（市埋文調査報告第44号）	
網取貝塚（同上第45号）	
茨 城（08）	
玉里村立史料館	
玉里村立史料館（Vol.1）	
板 木（09）	
佐野市	埼 玉（11）
松葉遺跡	浦和市教育委員会
佐野市教育委員会	大古里遺跡発掘調査報告書
町屋南遺跡－市道16号線道路改良工事に伴う発掘調査報告書－	(市内遺跡発掘調査報告書第24集) 960331
熊谷市教育委員会	
中二子古墳	井沼遺跡発掘調査報告書第12次
内堀遺跡群II	(市遺跡調査会報告書第135集) 960325
市内遺跡発掘調査報告書	白根遺跡発掘調査報告書（同上第155集） 950331
前橋市埋文発掘調査団	大久保領大内町遺跡発掘調査報告書（同上第195集） 950331
大屋敷遺跡IV	今ノ谷遺跡発掘調査報告書第6次（同上第200集） 951130
西田遺跡	明花南遺跡発掘調査報告書（同上第201集） 951130
(朝日玉川線道路改良工事に伴う埋文発掘調査報告書)	今ノ谷遺跡発掘調査報告書第7次（同上第203集） 960131
星敷II遺跡（公共開発（社会福祉複合施設建設）に伴う	大久保領大内町遺跡発掘調査報告書第8地点（同上第205集） 960131
埋文発掘調査報告書)	田島遺跡発掘調査報告書（同上第206集） 960131
	不動谷遺跡発掘調査報告書第6次（同上第208集） 960324
	大久保領大内町遺跡発掘調査報告書第9地点（同上第211集） 960324
	大久保領大内町遺跡発掘調査報告書第4次（同上第214集） 960630

千葉(12)	
国立歴史民俗博物館	新宿区百人町三丁目遺跡調査団 東京都新宿区百人町三丁目遺跡IV 951226
様式名文集成－中部編－	新宿区遺跡調査会 東京都新宿区若松町遺跡 960331
動物とのつきあい－食文化から愛玩まで－	千葉県東町駿ノ谷古墳発掘調査報告 960229
千葉県東町駿ノ谷古墳発掘調査報告 (国立歴史民俗博物館研究報告第65集)	新宿区百人町三丁目遺跡II 東京新宿区住吉町遺跡II 980920
農耕開始期の石器相成I 近畿（大阪・兵庫）・中国・四国 (国立歴史民俗博物館資料報告書7)	新宿区百人町三丁目遺跡III 下戸塚遺跡II 950930
農耕開始期の石器相成II 九州（同上7）	豊島区下郷土質資料館 生活と文化研究紀要第10号 960331
國立歴史民俗博物館研究報告第66集	豊島区立郷土資料館年報1994年度第10号 950825
國立歴史民俗博物館研究報告第68集	収蔵資料目録第八集 960327
日本古代の集成	
朝日新聞社(國立歴史民俗博物館)	
倭国乱	961001
千葉大学文学部考古学研究室	神奈川(14)
立木南遺跡	川崎市教育委員会 川崎市文化財調査集第30集 950331
千葉市立加賀貝貝塚博物館	川崎市文化財調査集第31集 960331
貝塚博物館紀要第23号	川崎市東株式会社内発掘調査報告書 950331
貝塚博物館紀要第24号	馬籠古墳保存整備・活用事業報告書 940331
千葉市教育委員会	南谷一遺跡発掘調査団 南谷一遺跡発掘調査報告書 960331
埋文調査(市内遺跡)報告書平成7年度	小田原市教育委員会 小田原市文化財調査集第55集 950331
市川市教育委員会	小田原城三の丸南櫓第三地点(市文化財調査報告書第55集) 小田原城下中宿町跡第I地点(同上第56集) 史跡小田原城跡第二丸中櫓Ⅲ(同上第57集) 小田原城下山角町船工地点(同上第59集) 小田原城小峯御殿ノ台大堀切(同上第60集) 960329
平成7年度市川市内遺跡発掘調査報告	
市立市川考古博物館	
平成7年度市立市川考古博物館年報第23号	
下總国分寺	
船橋郷土資料館	
近年の新聞報道に見る考古学の成果	950701
地形図地域研究資料1	
松戸市教育委員会	950325
木戸前二遺跡発掘調査報告書	富山(16)
松戸市文化財調査報告書第24集	富山県埋文化財センター 富山埋文化センター年報(平成6年度) 950331
(財)市原市文化財センター	富山市考古資料館 富山市考古資料館紀要 960228
10年の年報	(財)富山県埋文化振興財團埋文化財調査事務所 平成7年度埋文化調査概要 960331
市原市文化財センター年報(平成4年度)	梅原胡翌空遺跡調査報告(遺物編) (埋文発掘調査報告第7集) 梅原胡翌空遺跡・久戸遺跡・梅原胡翌空遺跡・田尻遺跡調査報告 960331
市原市文化財センター年報(平成5年度)	(同上第8集)
東京(13)	平成7年度埋文化財年報 961028
東京大学文学部考古学研究室	
東京大学文学部考古学研究室研究紀要第14号	960628
国學院大学文学部考古学研究室	
物見坂遺跡1985	950725
(国学院大学文学部考古学実習報告第27集)	
柳又遺跡A地點V(同上第28集)	石川(17)
柳又遺跡A地點VI(同上第29集)	金沢大学文学部考古学講座 9612
宮内庁書陵部蔵図	金沢大学考古学紀要第23号
埴輪臉石に見られる砂礫層	金沢市教育委員会 西ノ山・南新保遺跡IV(市文化財紀要119) 袖ヶ浦城と三ノ坂遺跡(同上123) 960329
－平成6年度陵墓系調査概要－(唐陵部紀要第47号抜粋)	袖ヶ浦城と三ノ坂遺跡(同上124) 960331
千代田区教育委員会	金沢市河原子館跡(同上124) 960331
千代田区の民具Ⅱ(区文化財調査報告8)	金石本町遺跡I(同上125) 960331
帝都高速度交通開拓地下鉄7号線瀬戸・駒込間遺跡調査会	金石本町遺跡II(同上126) 960331
江戸城・城跡市谷御門外構築・御用廻船第1分冊	金石本町遺跡III(同上127) 960331
(地下鉄7号線瀬戸・駒込間遺跡発掘調査報告書5-1)	金沢市近岡ラグダ遺跡(同上128) 960329
四谷御門外構築・御用廻船(同上4-1)	平成7年度金沢市埋文化調査年報(同上129) 960329
四谷御門外構築(同上4-2)	
新宿区遺跡調査会	野々市町教育委員会 高橋セボネ遺跡 960329
高田馬場三丁目遺跡	960331
新宿区百人町遺跡調査会	
百人町三丁目西遺跡I	960330

福井 (18)		焼津市歴史民俗資料館	
福井源立・栗谷朝倉氏遺跡資料館		焼津市歴史民俗資料館年報9	960331
一栗谷朝倉氏遣賀料館紀要1954	950331	焼津市歴史民俗資料館10	960731
特別史跡・栗谷朝倉氏遺跡	950331	袋井市教育委員会	
特別史跡・栗谷朝倉氏遺跡1995	960331	高尾向山遺跡II	960325
(特別史跡・栗谷朝倉氏遺跡第27集)		金山古墳群・金山横穴群I・II (市考古資料集第2集)	960325
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター		久野城 (平成6・7年度調査概報)	960320
高尾寺遺跡 (県理文調査報告第24集)	961028		
丹塚遺跡 (同上第25集)	950331		
八田新保1号窯跡 (同上第26集)	950331		
南市大桶遺跡 (同上第27集)	950330		
尾見町遺跡・下田遺跡・境地遺跡・犬山遺跡 (同上第28集)	950331		
長島寺遺跡 (同上第29集)	950331		
大土台遺跡 (同上第30集)	950331		
立原2号墳・山の上1号墳	961028		
(北陸自動車道関係遺跡調査報告書第13集)			
金津町教育委員会			
金津町の文化財	960301		
長野 (20)			
(財)長野県埋蔵文化財センター			
長野県埋文センター紀要4	9603		
赤い土器のクリ (県立歴史館開館記念企画展図録)	9411		
長野県埋文センター一年報12	9603		
松本市教育委員会			
松本市下町筋伊勢町 (市文化財調査報告No.122)	950321		
小原遺跡Ⅱ (同上No.123)	950321		
松本城下町筋伊勢町 (同上No.125)	950321		
松本市重要文化財馬場家住宅第1期修理工事報告書	960930		
文化財保護年報第1集	951031		
岐阜 (21)			
岐阜市教育委員会			
岐阜市遺跡詳細分類調査報告書 (岐阜市文化財報告98-1)	9603		
平成7年度岐阜市内遺跡発掘調査報告書	9603		
(岐阜市文化財報告98-2)			
平成5-7年度岐阜市文理文調査報告書	9603		
(岐阜市文化財報告96-3)			
岐阜市遺跡調査会			
城田・城之内	960328		
豊井市教育委員会・三重大学考古学研究室			
美濃国府跡発掘調査報告Ⅰ	9603		
静岡 (22)			
静岡市教育委員会			
ふちゅ～るNo.3 (平成5年度市文化財年報)	9603		
ふちゅ～るNo.4 (平成6年度市文化財年報)	960612		
平城遺跡・平城古墳群	96		
三島市教育委員会			
五輪・韻音洞・元山中・陰洞遺跡Ⅰ・II	940330		
三島市文理文発掘調査報告Ⅲ	940330		
三島市文化財年報第7号	961031		
三島市文理文発掘調査報告V	950328		
猿投茶庭遺跡	950330		
西大久保・奈良橋向遺跡	950320		
山中城跡三ノ丸1地点	950320		
焼津市教育委員会			
荒沢古墳群Ⅱ (市文理文調査報告書第16集)	950331		

安城市教育委員会		
御用地遺跡（市埋文発掘調査報告書第1集）	960330	
三 畠 (24)		
三重県埋蔵文化財センター		
伊賀府跡（市埋文調査報告99-4）	920331	
長者屋敷跡・牛込跡、中富山西浦遺跡（同上133-1）	960329	
津市教育委員会		
北垣内遺跡発掘調査報告（市埋文調査報告25）	960329	
上野市教育委員会		
上野市埋文年報	29603	
上野市教育委員会・上野市道跡調査会		
西明寺道跡発掘調査報告6次（市文化財調査報告56）	960331	
小芝道跡発掘調査報告3次（同上57）	9603	
森田道跡発掘調査報告（同上58）	960331	
上野市道跡調査会		
森脇道跡発掘調査報告（同上26）	950331	
鈴鹿市教育委員会		
鈴鹿市埋文調査年報Ⅲ	960329	
伊勢国分寺・国府跡3	960331	
滋 賀 (25)		
大津市歴史博物館		
開館7周年記念企画展	951012	
（近江の古代を握る－土に刻まれた歴史－）		
大津市教育委員会		
大津の文化財	960315	
大津市遺跡分布図（市埋文調査報告27）	960331	
滋賀県立大学人間文化学部		
琵琶湖文化論究会	9607	
草津市教育委員会		
草津川改修開通跡発掘調査概要報告書X	960331	
（市文化財調査報告書27）		
中主町教育委員会		
光明寺遺跡第7次発掘調査報告書（町文化財調査報告書第4集）	8503	
昭和60年度中主町内遺跡発掘調査年報（同上第5集）	8603	
照道荒見・上野・近石八幡線単線道路改良工事に伴う文理試	8703	
掘調査報告書（同上第14集）		
中主町内古文書目録（社署欄一）（同上第24集）	890331	
平成6年度中主町埋文発掘調査報告I（同上第45集）	9503	
近江国野州郡安治区有文書目録（同上第46集）	950331	
中主町のすまい（同上第48集）	960329	
信楽町教育委員会		
紫香楽宮聞所遺跡発掘調査報告（町文化財報告書第8集）	940331	
八日市市教育委員会・雪野山古墳発掘調査図		
雪野山古墳の研究	960329	
京 都 (26)		
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター		
京都府埋文情報第59号	960326	
京都府埋文情報第60号	960626	
京都府埋文情報第61号	961101	
京都府埋文情報第62号	9612	
第14回小さな観覧会	960817	
(財)京都市埋蔵文化財研究所		
研究紀要第2号	960229	
平成5年度京都市埋文調査概要	960301	
平成6年度京都市埋文調査概報	961218	
(財)京都市埋蔵文化財センター		
向日市埋文調査報告書第43集	950331	
郡城第7	960329	
(財)長岡京市埋蔵文化財センター		
長岡京跡右京第495次東羅古墳群発掘調査報告	950329	
（市埋文調査報告書第7集）		
長岡京市埋文センター一年報	960329	
長岡京市教育委員会		
井ノ内福荷塚古墳（市文化財調査報告書第34冊）	960331	
走田古墳群（同上第35冊）	960329	
大 航 (27)		
大阪大学福井荷塚古墳発掘調査団		
井ノ内福荷塚古墳	960331	
大阪府立弥生文化博物館		
平成6年春季特別展	960420	
（牟弥呼のランド～よみがえた弥生犬～）		
中國仙人のふるさと～山東省文物展～	961101	
（府立弥生文化博物館図録13）		
大阪府立近づく島博物館		
大阪府立近づく飛鳥博物館年報1	960331	
仁德院古墳（平成8年度春季特別展）	960416	
池上曾根遺跡史跡指定20周年記念事業実行委員会		
弥生の環濠都市と巨大神殿	970206	
関西工業大学技術研究所		
石器資料の石質調査（古文化財保存科学研究会調査報告）	900330	
大谷女子大学資料館		
社・上中跡（大谷女子大学資料館報告書第33冊）	9603	
貝塚寺町道跡発掘調査報告書（同上第34冊）	96	
大阪市教育委員会・(財)大阪市文化財協会		
平成6年度大阪市内埋蔵古墳地発掘調査報告書	960331	
(財)大阪市文化財協会		
四天王寺旧境内遺跡発掘調査報告I	960331	
長原道跡発掘調査報告VI	960325	
長原・丘陵道跡発掘調査報告VII	950331	
難波宮址の研究（第10）	950930	
森の宮跡II	960331	
豊中市教育委員会		
豊中市埋文発掘調査概要平成7年度		
（市文化財調査報告第37集）	9503	
高槻市立埋蔵文化財調査センター		
船上遺跡群（市文化財調査概要22）	9603	
高槻市文化財年報（平成6年度）	960229	
古吉郎・芝谷遺跡（市文化財調査報告書第20冊）	960327	
枚方市教育委員会		
枚方市埋文発掘調査概要1995（市文化財調査報告第30集）	960329	
平成5年度市民歴史講座（須恵器でみる古代の日本）	960329	
枚方市教育委員会・枚方市文化財研究会		
枚方市民文化財調査報告4	9603	
（旧川越村「村野・藤子作・山上・田宮」）		
枚方市文化財研究調査会		
枚方市文化財年報16（1994年度分）	960331	
枚方市文化財年報17（1995年度分）	960701	
茨木市教育委員会		
平成7年度発掘調査概報	960331	
東大阪市教育委員会・(財)東大阪市文化財協会		
若江遺跡第38次発掘調査報告	950331	
西ノ辻遺跡第27次・鬼虎川遺跡第27次発掘調査報告書	940331	

西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告	950303	加古川市教育委員会	
東大市下水道事業関係発掘調査概要報告書	950331	加古川市文化財目録	970203
西ノ辻遺跡第22次発掘調査報告書	950331	龍野市教育委員会	
西ノ辻遺跡第9次発掘調査報告	950331	新宮東山古墳群（市文化財調査報告16）	960329
鬼鹿ノ辻遺跡第26次・西ノ辻遺跡18~20次調査概要報告	950331	三田市教育委員会	
宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書第1分冊	960229	さんだのくらし3（はかる道具）	960301
宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書分冊2	960331	東和古墳・若荷古墳群第3号墳（市文化財調査報告第9集）	950331
八尾市教育委員会		つくる道具	960801
八尾市内道跡平成7年度発掘調査報告書I (市文化財調査報告33)	960331	さだ風土記3（小野）	961101
八尾市内道跡平成7年度発掘調査報告書II（同上34）	960331	おかあさんの考古学	961101
貝塚市教育委員会		ふるさと三田第18集（三田の力土碑）	970226
加治・神前・島中道跡発掘調査概要（市埋文調査報告第36集）	960329	さんだのくらし5（いわいの道具）	970226
東邊跡発掘調査概要I（同上第37集）	960329	加西市教育委員会	
貝塚市道跡群発掘調査概要15（同上第38集）	960329	横田遺跡	9403
貝塚市内町道跡（同上第39集）	960731	長坂遺跡I（市埋文調査報告23）	9503
河内長野市教育委員会		波道跡	9507
河内長野市埋文調査報告書II（野間里遺跡・向野遺跡）	960331	村前遺跡	9603
（市文化財調査報告書第27集）		堀の歴史	9607
河内長野市道跡調査会		加東郡教育委員会	
高向遺跡（市道跡調査会報XII）	960331	上中・瀬ノ内遺跡（都埋文報告書第18集）	9603
ジョウノマエ遺跡・尾崎遺跡・尾崎北遺跡・妻子尻遺跡・市町遺跡（同上XIII）	960330	中町教育委員会	
町東遺跡（同上XIV）	960331	曾我井・沢田遺跡曾我井・山田遺跡（町文化財報告11）	960331
町崎北遺跡（同上XV）	960331	新宮町	
羽曳野市教育委員会		まがい大字宇市	960501
古市道跡群XIV（市埋文調査報告書第33）	960329	町史よもやま話	970218
羽曳野の古墳（その1）	950331	新宮町教育委員会	
高麗城とその周辺（第13回歴史資料室テーマ展示）	9511	新宮町の石造遺跡（中世編）	950330
野ノ上遺跡		上郡教育委員会	
泉南市教育委員会		井の端古墳群	9603
泉南市道跡群発掘調査報告書XIII	96	安富町教育委員会	
第9回歴史の朝開く泉南シンポジウム (弥生文化の成立―日本古代国家の成立を探るIV―)	9611	塙野古墳（町文化財調査報告3）	960331
兵庫（28）		奈良（29）	
兵庫県教育委員会		奈良国立文化財研究所	
平成7年度年報	961225	埋文ニュース81（古代地方官街遺跡関係文献目録）	960322
兵庫県立歴史博物館		埋文ニュース82	960102
館説明1995（vol.13）	950701	埋文ニュース86	961220
尼崎市教育委員会		埋文ニュース84	970210
尼崎市埋文年報（平成4年度）	960325	飛鳥・藤原宮発掘調査概報	296905
六甲山腰遺跡調査会		奈良國立文化財研究所年報1995	961001
豊中市府部遺跡・第5次調査-	960331	奈良大学考古学研究室	
神戸市中央区旗舎内遺跡-第2次調査-	961118	平城京左京四条三坊十一坪発掘調査報告書	910331
神戸市北区古寺山遺跡調査と多聞庵寺址概要	961115	平城京左京三条三坊十一坪発掘調査報告書	奈良大学考古学研究室
伊丹市教育委員会		平城京左京四条三坊十一坪発掘調査報告書	961225
有岡城跡（市埋文調査報告書第18集）	960925	（奈良大学平城京発掘調査報告書第2集）	
口酒井遺跡発掘調査報告書第22次・25次調査 (市埋文調査報告書第10集)	9503	奈良大学文学部文化財学科	
豊岡市教育委員会・豊岡市立郷土資料館		文化財学報第17集	961225
立石山古墳群民間開発事業にかかる埋文発掘調査概要	940330	奈良県立橿原考古学研究所	
（市文化財調査報告書27・市立郷土資料館調査報告書27）		平城京右京一東北二坊三坪・西坪	940331
福成寺出土銭中世大量出土銭の調査報告書（同上28・同上 28）	940330	（県史跡名勝天然記念物調査報告第67号）	
加陽屋上ヶ鼻遺跡群（同上29・同上29）	940330	南郷遺跡群I（同上第69冊）	970128
森尾大内谷古墳群（同上第30集・第30集）	950330	久安寺モッティ・墓地跡（奈良文化財調査報告書第75集）	950331
豊岡市出土文化財管理センター とよおか発掘情報（第1号）	960325	高家遺跡群I（同上第72集）	960331
		奈良県道跡調査概報1991年度（第1冊分）	920331
		奈良県道跡調査概報1992年度（第2冊分）	930331
		奈良県道跡調査概報1993年度（第2冊分）	940331
		奈良県道跡調査概報1995年度（第1分冊）	960331
		奈良県道跡調査概報1995年度（第2分冊）	960331

福原考古学研究所年報21 (平成6年度1994) 考古学論叢 (第39号)	950331	島根県教育委員会・島根県立八雲立つ風土記の丘研究所 御山古墳の研究八雲立つ風土記の丘研究紀要Ⅲ	960329
福原考古学研究所付属博物館 95春季特別展 (弥生の風景唐古・鍛造跡の発掘調査50年) よみがえった生用具Ⅱ (平成8年度特別展跡出土木製品の保存処理)	950331	島根県立八雲立つ風土記の丘 プレ古代出雲文化展示サイエンスロマン "IZUMO~古代出雲 文化復~の招待~	9702
(財)由良大和古代文化研究会 研究紀要第3集	961001	島根古代文化センター 出雲国風土紀論究下巻古代文化叢書2	960331
奈良市教育委員会 奈良市埋文調査センター紀要1995 奈良市埋文調査報告書平成7年度	960329	しまねの古代文化第3号	960315
平城京東市跡推定地の調査Ⅳ (第18次発掘調査概報)	960331	古代文化研究第4号	960331
大和高田市教育委員会 コンピラ山古墳 大和高田市道跡分布調査報告書I (市文化財調査報告第6集)	960331	松江市教育委員会 史跡松江城公園周辺整備事業実施報告書	9603
福井市千塚資料館 かしはらの歴史をさぐる4 (平成7年度埋文発掘調査速報)	960427	松江市教育委員会・松江市教育文化振興財團 大久保谷遺跡発掘調査報告書 (松江市文化財調査報告書第67集)	9603
桜井市立埋蔵文化財センター 古代桜井の木製品	961030	川原脚谷横穴群発掘調査報告書 (同上第68集)	9603
櫻井町教育委員会 櫻井町内道跡発掘調査概要報告書1993年度 (町文化財調査概要11)	940331	四天王寺跡発掘調査報告書 (同上第69集)	9603
桜井町内道跡発掘調査概要報告書1994年度 (同上14)	950331	宮尾古墳群発掘調査報告書 (同上第70集)	9603
桜井町内道跡調査集録I (同上15)	950331	向山古墳群発掘調査概要報告書 (同上第71集)	9603
はいから野の花の四季 (町郷土ブックス6)	950331	人井・西地区道整備関係遺跡発掘調査概要報告書 (同上第72集)	9603
河合町教育委員会 河合町の文化財 宮堂遺跡Ⅱ (町文化財調査報告第11集)	970131	寺山小田遺跡発掘調査報告書 (同上第73集)	9603
和歌山(30) 和歌山県紀伊風土記の丘管理事務所 紀伊風土記の丘年報	950801	出雲市教育委員会 山持川川岸遺跡 上長浜貝塚	9603
鳥取(31) (財)鳥取市教育福祉振興会 秋里遺跡	960331	岡山(33) 岡山大学文学部考古学研究室 恩原2遺跡	960320
秋里遺跡 (マンション建設に伴う発掘調査)	960331	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 津島賀大遺跡7 (岡山大学構内遺跡発掘調査報告第10冊)	960229
平成7年度桂見跡群発掘調査概要報告書	960331	岡山大学構内道跡調査研究年報第13冊	961031
山田鼻遺跡Ⅱ	960331	岡山理科大学 自然科学研究所研究報告第21号	121595
面影山古墳群発掘調査報告書	9403	加計学園埋蔵文化財調査室 津島東3丁目遺跡第1地点清水谷遺跡	950331
(財)米子市教育文化事業団 吉谷トコ遺跡 (市教育文化事業団文化財報告書5)	9403	(加計学園埋蔵文化財調査報告書1)	
奥陵田遺跡群発掘調査概要 (同上6)	9503	就実大学吉備地方文化研究所 吉備地方文化研究第八号	961115
日久美遺跡IV (同上10)	9503	山陽学園短期大学紀要編集委員会 山陽学園短期大学紀要	9512
新山田山遺跡・睦田広庭遺跡調査概報 (同上14)	9503	岡山県教育委員会 岡山県の民俗芸能	960331
米子城跡Ⅲ (市教育文化事業団文化財調査報告書6)	9503	岡山県理文報告26	960331
米子城跡4 (同上12)	9603	津寺遺跡3 (県埋文発掘調査報告104)	960331
米子城跡5 (同上12)	9503	斎富遺跡 (同上105)	960331
米子城跡7 (同上15)	960329	百間川原尾島跡5 (同上106)	960331
米子城跡8 (同上15)	960329	南浦手遺跡2 (同上107)	960329
錦町第1遺跡 (同上17)	960331	中池内遺跡 (同上108)	960331
陰田広庭遺跡 (同上17)	960328	西大沢古墳群・畠ノ平古墳群・黒土中墓・虫尾遺跡・茂平	960331
新山田山遺跡(6区) (同上18)	960328	古窓・茂平城 (同上111)	
鳥根(32) 鳥根県教育委員会 埋文調査センター年報IV	960329	田益新田遺跡・西山古墳群 (同上109)	960331
志津見ダム建設予定地内埋文調査報告書3 いにしえの鳥根ガイドブック	960331	船岡遺跡・羽方遺跡 (同上110)	960331
	960331	妹尾鳥居の会運営委員会 妹尾・箕島のむかしをたづねて	960331

倉敷市		庄原市教育委員会	
倉敷の歴史	960325	門田下古墳（市文化財調査報告書4）	9603
倉敷近畿文化センター		（財）東広島市教育文化振興事業団	
倉敷埋文センター年報2（1994年度）	951231	今田道跡発掘調査報告書（文化財センター調査報告第5冊）	950331
茂庭古墳群（市埋文発掘調査報告第5集）	950331	西東子鹿苑発掘調査報告書（同上第7冊）	960331
倉敷市立自然史博物館		瀬戸町教育委員会	
倉敷市立自然史博物館報第6号	960331	96古代土器製造シンポジウム	970110
稚松山の自然	960301	神石町教育委員会・広島大学文学部考古学研究室	
宇野郷雄植物コレクション5 （市立自然史博物館収蔵資料目録第5号）	960331	辰の口古墳	970110
津山弥生の里文化財センター 年報津山弥生の里第3号	960331	（財）吉田町地域振興事業団	
津山弥生の里文化財センター・津山市教育委員会		手元1号・4号古窯（町地域振興事業団調査報告書第4集）	960329
長畠山北11号墳（市埋文調査報告第5集）	960331	新市町教育委員会	
津山郷土博物館		四五迫城跡（町文化財調査報告第5集）	920331
吹矢家資料目録上（津山郷土博物館紀要第八号）	960331	ふるさと新市町史案内	950301
正岡子規と大谷は空	960323	東城町教育委員会	
笠岡市教育委員会（石田寛）		鬼頭路古墳発掘調査報告書（市埋文発掘調査報告書第3集）	960331
皇国地誌・備中郡小田郡淡戸村註－現笠岡市堺城村註を中心 に一族き嗣り		鶴鳴山古墳群（第1・2号古墳発掘調査報告書）	960331
笠岡市		山 口 (35)	
笠岡市史	9603	山口大学	
総社市教育委員会		山口大学構内遺跡調査研究年報XIII	961224
総社市埋文調査年報6	961120	山口市教育委員会	
高梁市教育委員会		初瀬遺跡（市埋文報告第51集）	9403
天然記念物「里牛山のサル生息地」のニホンザル保護・管理 総合報告書	961009	宮の前遺跡（同上第53集）	9503
大谷市号境シンボジウム実行委員会		山口市内遺跡詳細分布調査（小唄地区）	9503
終末期古墳と大谷一号墳（被葬者は吉備大宰か）	960328	山口市内遺跡詳細分布調査（宮野地区）（同上第59集）	9603
奥津町教育委員会		下関市教育委員会	
高下休場道路・西屋A遺跡（町埋文発掘調査報告2）	960329	延行条里遺跡（市埋文調査報告書56）	960328
広 島 (34)		下関市立考古博物館	
広島市文学部帝釈秋祭跡発掘調査室		下関市立考古博物館年報1	960331
帝釈秋祭跡群発掘調査室年報IV	8603	下関市立考古博物館常設展示図録	960513
帝釈秋祭跡群発掘調査室年報X	950331	越後木都遺跡の歴史展	951114
（財）広島県埋蔵文化財調査センター		防府市教育委員会	
城山（県埋文調査センター調査報告書第137集）	9603	防府市文化財調査年報I（1988）	890331
下上戸遺跡（同上第138集）	9603	周防国府跡第78・84次発掘調査概要（市埋文調査概要9501）	950330
熊ヶ追1・2号窯跡（第139集）	960331	周防国府跡第88・91次発掘調査概要（同上9601）	960328
神咲遺跡発掘調査報告（第140集）	960331	平成5・6年度防府市内遺跡発掘調査概要（同上9602）	960328
本丸丸山遺跡発掘調査報告書（第141集）	9603		
栗崎城跡（第142集）	960331	徳 島 (36)	
半綱II（平成6年度）	9503	徳島市教育委員会	
研究報告Ⅵ	9603	徳島市埋文発掘調査概要6	960331
広島県立歴史民俗資料館		第16回埋文資料展図録	960123
考古企画展（古代の糞と器）	960426		
広島市教育委員会		香 川 (37)	
広島市の文化財	961225	高松市歴史資料館	
広島市歴史科学教育事業団		第6回企画展（鏡の美）	950128
広島城跡遺跡（市埋文調査報告第15集）	9503	第9回特別展（瑞枝一宮田村神社の名宝展）	9501
串山遺跡（同上第16集）	9503	第11回特別展（讃岐の古瓦展）	9601
黒谷遺跡（同上第17集）	9503	高松埋文展	970218
平成6年度考古学教室の記録集	951201	高松市歴史資料館年報（平成6年度NO.2）	950825
（古代の布づくりと土器づくり体験）		高松市歴史資料館収蔵資料目録（考古資料）	960331
府中市教育委員会		高松市教育委員会	
府中市内遺跡1（市埋文調査報告第6冊）	950331	空港跡地遺跡（亀の町地区I）（市埋文調査報告第25集）	950131
府中市内遺跡2（同上第7冊）	960331	井手東I遺跡4分冊（同上第26集）	950331
		井手東II遺跡（同上第27集）	950331
		空港跡地遺跡（亀の町地区II）（同上第28集）	9503
		松林遺跡（同上第31集）	960331
		弘福寺領瀬戸山田郡山田町同様関係遺跡発掘調査概報	9603
		（同上第32集）	

愛媛 (38)			
愛媛大学法文学部考古学研究室			
江口貝塚Ⅱ (愛媛大学法文学部考古学研究報告第4冊)	960331	下月限天神森遺跡Ⅲ (同上第457集)	960331
愛媛県埋蔵文化財センター		井田庄C遺跡第5次・高塚遺跡第14次 (同上第458集)	960331
一般国道11号重信道路埋文発掘調査報告書	960331	箱崎遺跡4 (同上第458集)	960331
一般国道19号松山環状線埋文発掘調査報告書Ⅱ	960331	東阿波遺跡2 (同上第460集)	960331
糸大谷遺跡 (埋文発掘調査報告書第63集)	9603	長島遺跡2 (同上第461集)	960329
大西町教育委員会		福岡城赤坂門跡 (同上第463集)	960331
妙見山古墳群1号墳整備概報	960520	吉寺2 (同上第454集)	960331
上浦町教育委員会		立花寺3 (同上第455集)	960329
萩ノ貝塚愛媛大学法文学部考古学研究室編	960131	立花寺4 (同上第466集)	960331
福岡 (40)		福岡県外環状道路開埋形態調査報告Ⅰ (同上第467集)	960329
九州大学大学院比較社会文化研究科九州文化史資料室		次郎丸遺跡1 (同上第468集)	960331
九州文化史研究所紀要1	961028	カルメル修道院内遺跡Ⅲ (同上第489集)	960331
北九州市立考古博物館		有田・小田部第33集 (同上第470集)	960329
研究紀要第3号	9606	有田・小田部第44集 (同上第471集)	960331
北九州市立考古博物館年報 (平成7年度)	960620	有田・小田部第55集 (同上第472集)	960329
縄文・弥生の神と祈り (第14回特別版)	960803	有田・小田部第56集 (同上第473集)	960329
北九州市教育委員会		兜塚古墳 (同上第474集)	960329
祇園御遺跡第2地点 (市文化財調査報告書第68集)	960229	柳之内遺跡1 (同上第475集)	960329
相模横穴群 (同上第69集)	960331	三吉永浦遺跡 (同上第476集)	960331
小倉城跡Ⅱ (同上第76集)	960331	三吉遺跡群2 (同上第477集)	960329
(財)北九州市教育文化事業団		姪浜遺跡2 (同上第478集)	960329
上曾根遺跡 (市埋文調査報告書第181集)	961005	今延・郡江遺跡延永水A遺跡Ⅲ久原山遺跡群Ⅰ (同上第479集)	960329
中綱手遺跡 (123区) (同上第182集)	961008	絲島遺跡群2 (同上第480集)	960331
園田遺跡・八反田遺跡 (同上第183集)	961008	大原D遺跡群1 (同上第481集)	960331
金山遺跡 (同上第184集)	961009	西原周辺遺跡調査報告書T (同上第482集)	960329
徳力I地区整理事業実績調査報告書8 (同上第185集)	961009	西新町遺跡 (同上第483集)	960331
徳力I地区整理事業実績調査報告書9 (同上第186集)	961009	西町遺跡5 (同上第484集)	960329
長野・早田遺跡 (第3地点) (同上第187集)	961009	八郎V (同上第485集)	960329
貫川遺跡11 (同上第188集)	961009	湖南跡6 (同上第486集)	960315
駒場・丸山遺跡1 (同上第189集)	961009	鴨原跡7 (同上第487集)	960315
片井田遺跡II区 (同上第190集)	961005	福岡市埋蔵文化財年報Vol.9 (1994年度)	960329
長ムタ遺跡 (同上第191集)	961008	福岡市埋蔵文化財センター	
祇園御遺跡3 (第3地点) (同上第193集)	961008	福岡市埋蔵文化センター年報第14号	960220
中綱手遺跡4区 (同上第194集)	961009	福岡市埋蔵文化センター年報第15号	970228
埋文調査室年報12 (平成6年度)	961009	小郡市教育委員会	
研究紀要10	961009	一ノ口遺跡1地点 (市文化財調査報告書第86集)	940331
福岡市教育委員会		三田地区遺跡群4 (同上第87集)	950331
比恵遺跡13 (市埋文調査報告書第368集)	960331	大保西小路遺跡 (同上第99集)	950331
鴻池遺跡4 (同上第372集)	960331	福岡山の上遺跡2・小郡正尻遺跡2 (同上第100集)	950331
井尻B遺跡4・南ノ様遺跡4 (同上第441集)	960331	刈又地区遺跡群1 (同上第101集)	950331
比恵遺跡群19 (同上第442集)	960331	小郡正尻遺跡3 (同上第107集)	960331
博多49 (同上第443集)	960331	小郡大保遺跡 (同上第108集)	960229
原遺跡8 (同上第444集)	960224	三地区地区遺跡群6 (同上第109集)	950331
持田・油吉填埋2 (同上第445集)	960331	三国地区地区遺跡群7 (同上第111集)	950331
浦添木原3次 (同上第446集)	960331	筑紫野市教育委員会	
博多50 (同上第447集)	960331	八ヶ坪遺跡第6・7地点 (市文化財調査報告書第22集)	850331
博多51 (同上第448集)	960331	原田地区遺跡群 (同上第37集)	93
博多52 (同上第449集)	960331	「從是北筑前」鏡國境石 (同上第45集)	90
博多53 (同上第450集)	960329	五郎山古墳 (同上第46集)	960331
比恵遺跡群20 (同上第451集)	960329	岡垣地区遺跡群1 (同上第51集)	960901
比恵遺跡群21 (同上第452集)	960331	宗像市教育委員会	
比恵遺跡群22 (同上第453集)	960329	富地原森 (市文化財調査報告書第40集)	950331
那珂遺跡15 (同上第454集)	960331	富地原神星崎 (同上第41集)	960329
那珂16 (同上第455集)	960331	宗像市内遺跡等分布地図	970331
下月限天神森遺跡Ⅱ (同上第456集)	960331	宗像の歴史歩数 (宗像市文化財ガイドブック)	970127

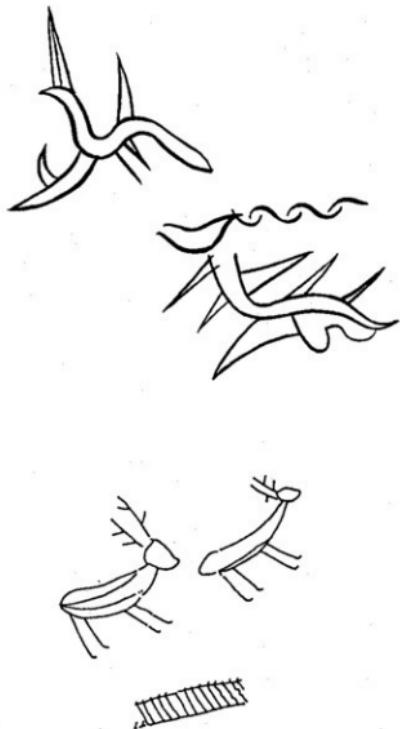
太宰府市教育委員会	
太宰府条坊跡Ⅲ（市の文化財第30集）	9603
太宰府・佐野地区遺跡群VI（同上第31集）	9603
太宰府文化財名選	9603
遠の朝廷太宰府（CD-ROM）	
津屋崎町教育委員会	
在自遺跡群Ⅲ・真賀園場整備事業津屋崎地区に伴う発掘調査報告書一（町文化財報告書第11集）	960329
在自遺跡群Ⅲ（同上第11集）	970310
佐賀県（41）	
佐賀市教育委員会	
御手水遺跡II（市文化財調査報告書第64集）	950331
梵恩原遺跡4区・草場遺跡1区（同上第65集）	960329
麻付遺跡1区・大塚遺跡2区（同上第66集）	960331
上捕遺跡3区（同上第67集）	950329
佐賀市理文城跡調査報告書1990・1991年度（同上第68集）	960329
来迎寺遺跡（2・3区）・若宮原遺跡（同上第69集）	960329
西千布遺跡1区・友貞遺跡6・9・10・11区（同上第70集）	960331
修理田遺跡1（同上第71集）	960329
忠兵衛屋敷遺跡（同上第72集）	960329
下和泉一本椎遺跡I（同上第73集）	960329
下村遺跡（同上第74集）	960329
東千布遺跡II（同上第75集）	960331
佐賀城跡（同上第76集）	960331
東名遺跡（同上第77集）	960331
有田町教育委員会	
小瀬上窓・向ノ原窓（町内古窓跡群詳細分布調査報告書第8集）	950331
天神森窓・小物成窓（同上第9集）	960331
熊本（43）	
熊本市教育委員会	
つじヶ丘横穴群発掘調査報告Ⅱ	961011
大分（44）	
大分県教育委員会	
岩崎横穴羣	960331
大分県内遺跡発掘調査概報	960331
大分県文化財調査4平成6（1994）年度版	960331
府内城三ノ丸北口跡	960331
机張原遺跡・女眞近世墓地・庄ノ原遺跡群	960331
（九州横断自動車 道関係埋文発掘調査報告書5）	960331
横手遺跡群発掘調査報告書（市文化財調査報告書第93集）	960331
德蔵遺跡（同上第94集）	960331
喜々地町教育委員会	
喜々地の遺跡II（町文化財調査報告書第2集）	950331
鹿児島（46）	
加世田市教育委員会	
柳の原遺跡（市埋文発掘調査根要）	9014
別府城跡（市埋文発掘調査報告書10）	9503
干河原遺跡（市埋文発掘調査報告書11）	950331
中 国	
洛陽市文物工作隊	
洛陽考古四十年	970224

V. 資料紹介と研究ノート

吉備津神社御金殿の瓦と宮内の瓦飾

安仁神社裏山出土銅鐸

片岡家所蔵出土地不明銅鐸



岡山市域に生息する動物たち

天瀬のリュウ

生息地：天瀬遺跡器台

南方のシカ

生息地：南方遺跡剣形木製品

吉備津神社御釜殿の瓦と宮内の瓦師

吉備津神社は岡山市吉備津に所在し、古くから吉備諸国はもとより全国規模の信仰を集めてきた。広大な境内には、国宝の本殿をはじめ、数多くの文化財が所在する。このうち御釜殿は、国指定の重要文化財〔建造物〕で、鳴釜の神事で著名であるが、その棟札⁽¹⁾によれば石見銀山の開発に成功した安原氏一族が檀那となって慶長17年（1612）に建造されたことが判っている。1995・96年度に国庫補助事業で屋根の葺替修理が実施され、新たに紀年銘を持つ鬼瓦やそれと組み合う軒瓦類が確認された。これらは、考古資料としても岡山市近郊における中世末から近世初頭の瓦の生産と流通を考える上で重要な位置を占め、特に地元の宮内の瓦師の動向を探る有力な手がかりとなるものである。修理時に確認された御釜殿の屋根瓦のうち、製作が江戸時代前期以前とみられるものを中心に報告を行う。

1. 御釜殿の瓦

軒丸瓦類 瓦範の抽出を念頭に、瓦当文様からI類～VII類に分類した。I～IV類は三巴文、V類は井桁に藤文、VI・VII類は桐文である。丸瓦部内面のコビキ⁽²⁾痕はI～IIIa・V類がA、他はBである。瓦当面のハナレ砂の有無、胎土・焼成などからはI・II・V類、III・IV・VI類、VII類に三分される。

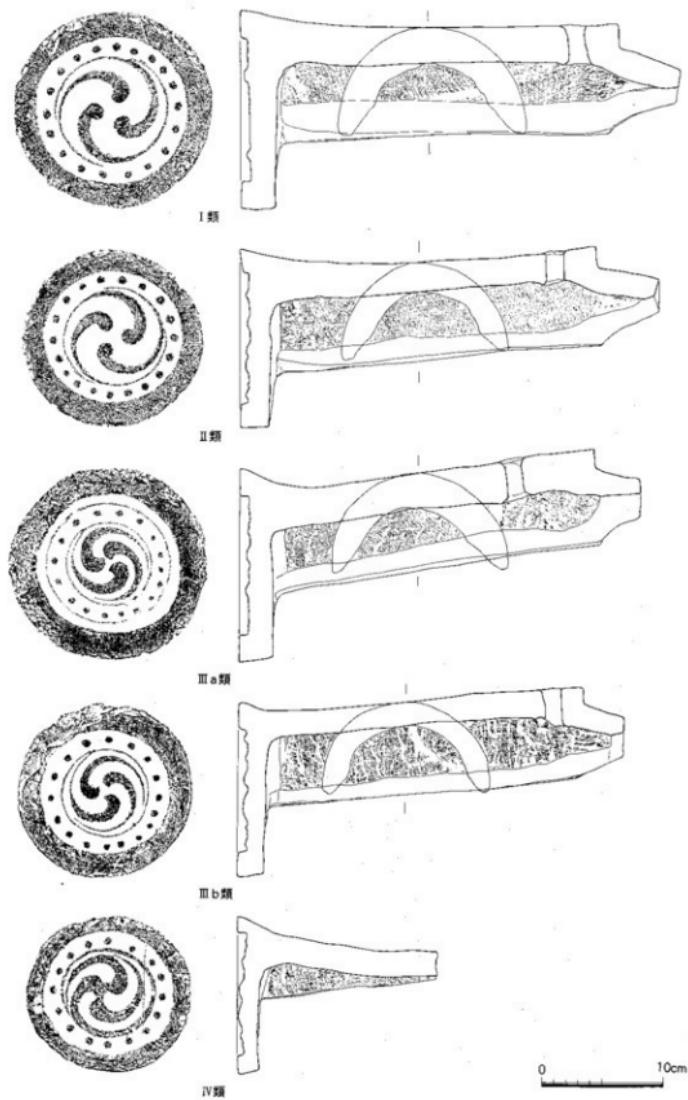
I類は全長36.5cm、瓦当部外径16.1cm、瓦当文様区径11.5cm、文様は左巻き三巴で、巴外周に圓線はなさず、珠文は19個。瓦当面に1mm大以下のハナレ砂を顕著に付着させる。丸瓦部の器壁が厚く、瓦当円盤との接合は極めて頑丈である。瓦当裏の括れはさほど顕著でなく、丸瓦体部より連続的に瓦当面に至ってシャープに終る。丸瓦側部内角の面取ケズリはそのまま瓦当裏に至らずに直前で浅くなり、そのぶん瓦当裏の側部が厚くなる。玉縁下角の削り込みは、丸瓦体部に僅かにかかる程度。丸瓦部外表面は面取的な綫ナデ。丸瓦内面の布目はガゼ状に細かく、コビキA痕より目立って残っている。吊紐痕は確認できない。胎土は断面が淡灰色で生地が細かい、器壁は黒灰色を呈して、焼成や炭素の吸着度は良好である。

II類は、全体にI類と同様であるが、やや小ぶりである。全長34.9cm、瓦当部外径14.5cm、文様区径10.5cmを測る。文様はやはり左巻き三巴で、巴外周に圓線をなさず、珠文数は19個、瓦当面のハナレ砂の付着が顕著である。外形や丸瓦部内外面の状況も基本的にI類と同じであるが、丸瓦部外面には綫叩痕が消え切らざりに観察できる。記載個体は器面が暗灰色で、I類より炭素の吸着が悪いが、焼成はやはり良好である。

IIIa類は全長33.5cm、瓦当部外径14.6cm、文様区径10.5cm。文様は右巻き三巴の周囲に圓線、その外に17個の珠文があり、外にはさらに圓線がめぐる。瓦当面のハナレ砂は施されない。瓦当裏の括れは深く、瓦当上角は鋭角をなす。丸瓦部外面の綫ナデは丁寧で、綫叩痕はみえない。丸瓦部内面の布目は細かいが、見かけ上はコビキA痕が圧倒する。布目には粗い横糸（紐）が1.4～2.0cm間隔でらせん状に縫う。吊紐痕はD⁽³⁾で太い。丸瓦側部内角の面取ケズリはほぼ一様に瓦当裏に達し、玉縁下角の削り込みは、丸瓦体部に僅かにかかる程度。器面は黒灰色を呈して炭素の吸着は良好であるが、断面は芯部が暗灰色、表部が灰色で、全体の焼成はあまり感をうける。胎土は生地が細かいが1mm内外の砂粒を含む。



第1図 位置図 (1/10,000)



第2図 御釜殿の軒丸瓦 1

III b類は全長31.1cm、瓦当部外径14.3cm、文様区径10.0cmを測る。文様は右巻き三巴に圓線を隔てて17個の珠文を配す。配置や大きさに微妙な癖をもった巴や珠文はIII a類のものと完全に一致し、III a類の範の外側圓線から外を切り詰めたのが、このIII b類と考えられる。瓦当面のハナレ砂は施されない。瓦当裏の括れは深いが、III a類よりは浅い。丸瓦部外面には縦ナデを施すがやや粗雑で、繩叩痕が明瞭に観察される。丸瓦部内面はコビキB痕が顯著であるが、これに遅れる布目は細かく、0.7~1.5cm間隔で粗い横糸が縫っている。吊紐はD。丸瓦側部内角の面取ケズリは体部から一様に瓦当裏に達し、玉縁下角の削り込みは、III a類などより丸瓦体部に深くかかる。全体に器壁は薄くなっている。器面は淡灰黄色を呈し炭素の吸着度は悪い。胎土の断面も同色で、生地は細かいが1mm内外の砂粒を含み、全体の焼成はIII a類よりもさらによい。

IV類は、普通形態の軒丸瓦ではなく、棟込の菊丸瓦である。全長16.8cm、瓦当部外径12.7cm、文様区径9.9cmを測る。文様は圓線を伴う左巻き三巴で、珠文は16個。瓦筋の摩耗と傷が顯著で、圓線は太線化し、掲載個体では右側に縦の亀裂が入っている。巴の頭部は互いに連続しているが、瓦筋当初からのものか摩耗による結果かは判らない。瓦当面のハナレ砂は施されない。瓦当裏の括れは深く、瓦当上角は鋭角となる。丸瓦部は瓦当裏では丸曲線であるが尾端に向かって板状化する。その外面は粗い縦ナデ、内面はコビキB痕が観察できるが、棟込瓦だけにかなりナデが及んで消されている。器面は淡灰黄色で、炭素の吸着は悪く、断面も同色で、全体の焼成もよい。胎土の生地は細かいが赤褐色の鉄分粒など1mm内外の砂粒を含む。

V類は全長31.4cm、瓦当部外径12.9cm、文様区径9.4cmを測る。文様は井桁文の内側に下り藤とみられる表現があり、周間に圓線を隔てて珠文15個を配する。瓦当面にはハナレ砂を付着させる。瓦当裏は括れるが顯著でなく、丸瓦部外面は面取の縦ナデで、微かに繩叩痕が遺存する。丸瓦部内面の布目は細かく、見かけ上はコビキA痕より優位に残る。吊紐痕はD。丸瓦側部内角の面取ケズリは瓦当裏が浅くなり、玉縁下角の削り込みの丸瓦体部へかかる程度はIII a類とIII b類の中間的。器面は黒灰色で炭素の吸着度が良く、断面は灰色、2mm以下の赤褐色鉱物粒ほかの砂粒を含む。全体の焼成は堅緻。井桁と藤は吉備津神社社家の藤井氏の紋であり、こうした一種の家紋瓦が、既にコビキA段階に成立していたことになる。

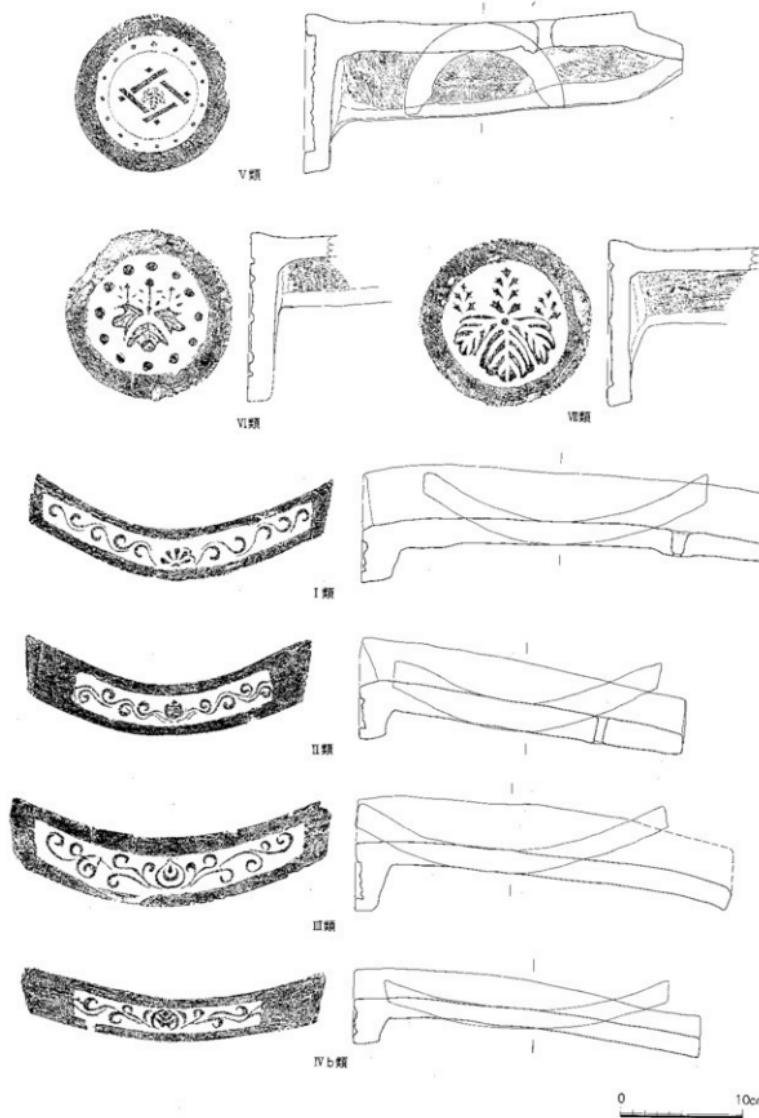
VI類は瓦当部外径13.8cm、文様区径9.5cmで、文様は五四の桐に12個の珠文を伴う。瓦当裏の括れは前述各類よりかなり浅い。丸瓦部内面は細かな布目が顯著に遺存し、コビキはB。器面は淡灰黄色、断面は表部が同色、芯部が暗灰色で、炭素の吸着や焼成はよい。胎土には赤褐色の鉄分粒を含む。

VII類は瓦当部外径13.5cm、文様区径10.0cmで、文様は五七の桐。瓦当面にキラコ(雲母片)を伴う。丸瓦部内面はコビキB痕に細板状叩きが全面に密に及ぶ。器面は黒灰色、断面は単調に灰色で、炭素吸着・全体の焼成とも良好。胎土の生地はやや砂質で、1mm以下の砂粒を含む。

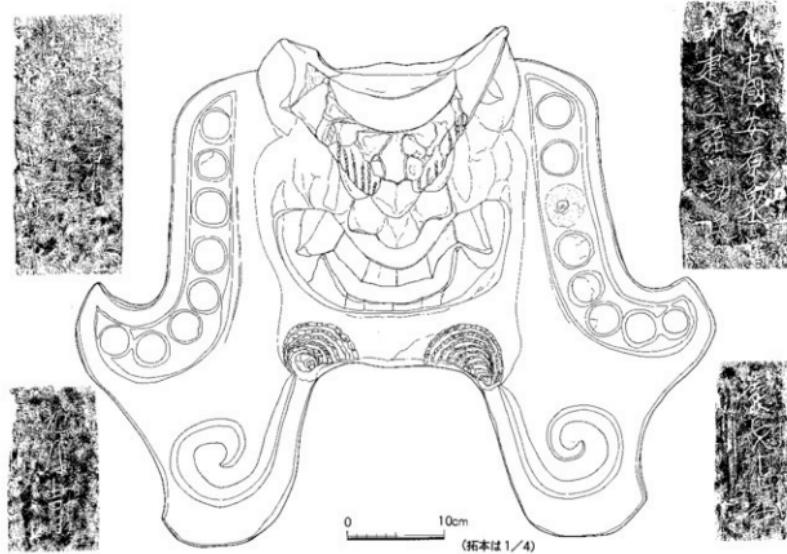
軒平瓦 I~IV類を報告する。中心飾はI類が半裁菊花、II類は立体感のある宝珠、III・IV類は凸線表現による宝珠で、文様系統、胎土・焼成、ハナレ砂などからI・II類とIII・IV類に大別できる。

I類は全長33.3cm、瓦当幅24.9cm、瓦当弧深5.0cm、脇区幅1.3cmで、最も弧深が深く、脇区が狭い。文様の唐草は五転で、瓦当面と平瓦部凸面にハナレ砂を付着させる。瓦当上角を最大幅1.0cmで面取りし、平瓦凹面には細かい布目がナデ消されずに残っている部分がある。器面は黒灰色で炭素の吸着が良く、断面は一様に灰色で、全体の焼成は良好で堅緻、胎土は生地が細かい。

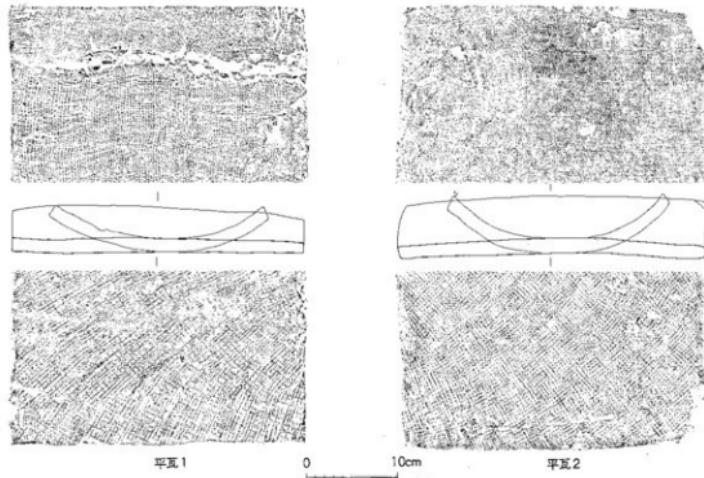
II類は全長27.3cm、瓦当幅23.4cm、瓦当弧深4.1cm、脇区幅2.7~4.0cmを測る。文様の唐草は四転が確認できるが、瓦筋の切り詰めの結果で、本来は五転の可能性が考えられる。中心飾の宝珠の下には二条線による萼状の表現がある。やはり瓦当面と平瓦部凸面にハナレ砂を付着させ、瓦当上角を最大幅1.5cmで面取りし、平瓦凹面には細かい布目がナデ消されずに残っている部分がある。瓦当裏は瓦面にほぼ平行で、断面が長方形に近い。器面は黒灰色で、炭素吸着・全体の焼成とも良好で、胎土は生地が細かく堅緻。



第3図 御釜殿の軒丸瓦2・軒平瓦



第4図 御釜殿の鬼瓦



第5図 御釜殿の平瓦

III類は全長31.5cm、瓦当幅25.6cm、瓦当弧深3.5cm、脇区幅2.0cmを測る。文様の唐草は大小の巻きが複雑に絡んで六転する。瓦当面などのハナレ砂は施さない。I・II類では平瓦尾部付近に釘穴を持つのに対し、このIII類はIV類と共に釘穴を持たない。瓦当上角の面取りはないが、瓦当裏下角と平瓦小口上角を面取りする。瓦当裏側面はケズリによって薄くなり、結果として断面長方形となっている。また、平瓦部凹面には細かい布目が十分にナデ消されずに比較的顕著に観察できる。器面は炭素がよく吸着して黒灰色を呈する部分もあるが、暗灰黄色の部分もある。断面は灰色で、胎土の生地は細かいが黒色粒（酸化炎なら赤褐色に発色か）を顕著に含む。

IV類の文様は、明らかにIII類の文様構成を受け継いだものである。掲載個体は、複雑な五転の唐草が確認できるが、瓦芯の両側部を切り詰めた結果である。後述のように瓦芯切り詰め前の個体が他遺跡で確認でき、これに便宜的にIVa類の名称を与えるため、御釜殿例はIVb類としておく。本IVb類は全長28.8cm、瓦当幅25.0cm、瓦当弧深2.5cm、脇区幅4.0～5.3cmを測り、瓦当弧深が浅く、脇区が広い。III類はほか前述各類と比べて、瓦当高が低く、平瓦部厚も薄い。瓦当面などのハナレ砂や、瓦当上角ほかの面取りは施さない。平瓦部凹面は、瓦当付近に幅2～3cmの板状圧痕を残し、全面はナデが比較的粗雑にもかかわらず布目痕は観察できない。器面は灰色～暗灰色で炭素の吸着は十分ではない。断面は灰色で、胎土の生地は細かいが、1mm内外の砂粒を含む。

鬼瓦 銘文が確認された大棟南端の鬼瓦について記す。鬼面の鬼瓦で、最大幅65.5cm、最大高52.8cm、最大厚27.9cmを測る。厚さ9.1～10.0cmの板に鬼面を貼り付ける構造で、板部は外周を残して背後からくり込まれ、裏面中央に固定のための把手穴がケズリ出されている。鬼面の左右は体部からヒレ部にかけて深さ約1.5cmで帯状の窪みがあり、各々8個の貼り付けによる円形文が配される。板部下半の左右には、ケズリ込みによる断面V状の溝が渦を巻く。ヒゲは円錐形で、段と繩紐押捺あるいは棒状工具押し曳き状の凹凸による表現がらせんを切る。口は開き、上下左右に犬歯（牙）が4本、その間を上下とも4本の歯を表現する。唇の歯に対する段差は約2.5cm、唇の額に対する段差は約11cmで、鼻は高くまた立体的である。額の上には月輪があり、鬼面本体の厚さは約19cmといえる。眉の細部は繩目状の表現で、額の左右には花弁状の起伏がある。角は細い円錐状で僅かに上に反るが、左角の先は欠損している。耳は板部に直接貼りつき、比較的扁平である。器面は暗灰色～淡灰褐色で、断面は表皮部が淡灰褐色で芯部が暗灰黒色、胎土の生地は細かいが黒色もしくは赤褐色の鉄分粒を多く含み、最大長2cmほどの木模細片も混ざっている。

銘文はヘラ書きで、四か所に分かれれるが、総て板部の側面にある。鬼面右方の二行は「備カ中國安原泉守カ □建立謹曰認カ之」、鬼面右方の二行は「□大工藤原朝臣 □家五郎左衛門」と読めるが、双方とも判読部の上片は器面が荒れ、さらに上に字があった可能性もある。鬼面右ヒレ部下面には「慶長十七壬子年」、左ヒレ部下面には「九月吉日」が明記されている。この銘文は御釜殿の棟札と建立の年月が一致し、「安原泉守」は棟札でいう「安原和泉守草壁真人徳忠」、「□大工藤原朝臣」以下は棟札でいう「瓦作 藤原五郎左衛門」であることは明らかである。

格子のタタキ痕を持つ平瓦 13世紀末ないしは14世紀に遡る可能性のある2点を記す。いずれも龜山焼⁽⁴⁾とみられ、凸面には格子タタキ痕、凹面には布目痕を残す。格子目は、平瓦1が3～5mm、平瓦2が1.5～2mmで、平瓦2の方が細かく凹部が深くて凸部の稜がシャープである。布目も平瓦2の方がかなり細かい。平瓦1の方が古相といえよう。共に平均的な器厚は1.2cm程度で近世初頭の平瓦に比べて薄く、器面は暗灰～灰色、断面の表部は淡灰色、芯部は暗灰色に発色し、須恵質というよりは瓦質焼成である。

瓦の組合せと年代 軒丸瓦VII類は最新相品で、様式化した桐文様、瓦当面のキラコ使用や丸瓦部内面タタキの状況など、岡山市近郊での近世瓦の一般的編年觀⁽⁵⁾に照せば、幕末ないしは古くとも江戸中期後半に位置づけられる。次に新しいのは軒丸瓦VI類で、桐文の形態や大形化した12個の珠文その

他の特徴から、江戸前期としてもその初頭には遡り得ない。

軒丸瓦VI・VII類を除いた残りが、江戸初期ないしはそれ以前と考えて良い特徴を持っている。御金殿が建てられた慶長17年（1612）には、先進的な大坂や播磨はもちろん岡山城に瓦を供給した瓦師集団においてもコピキAからコピキBへの転換を終えている^⑥。従って、今の御金殿創建時の新調瓦もコピキBである可能性が高く、軒丸瓦IIIb類と実際には棟込瓦である軒丸瓦IV類が該当する。銘を持つ鬼瓦も、基本的にはこれらと同じ胎土・焼成などの特徴を持ち、同様の論法と法量から組み合った軒平瓦はIVb類であったと見通せる。慶長17年の軒丸瓦IIIb・IV類、軒平瓦IVb類組合せは、後述する他の遺跡や建造物での紀年銘も含めた共伴関係でも傍証される。

そうするとコピキAの軒丸瓦I～IIIa・V類、軒平瓦のI～III類は慶長17年よりも製作年代が遡る流用古瓦とみなせる。『多門院日記』の永禄11年（1568）に「キヒツ宮ニ鳴釜在之」とあって前身建物が予想されるし^⑦、前近代での古瓦流用の一般的な状況からしても、当然ありえる事である。事實として御金殿では中世中葉にまで遡る平瓦までもが現役で掲げられていたのである。瓦当を残す流用瓦の組合せと年代を考えてみると、ハナレ砂の有無、焼成や炭素の吸着度、胎土、法量、それに大局としての時期観から、軒丸瓦I・II類は軒平瓦I・IIと、軒丸瓦V類は軒平瓦III類と、軒丸瓦IIIa類は軒平瓦III類と組み合は可能性が高い。最古相の軒平瓦I類は、法隆寺の瓦の編年觀^⑧などに照れば15世紀後半から16世紀前葉までの振幅のうちに位置付けられよう。軒丸瓦I類、II類がそれと組むとするには、巴外周の圓線欠如が示す新相観が気がありはあるが、作りや技法は確かに古相である。軒平瓦II類は、脇区の広さや唐草の展開状況などからすればIII類より一見新しくも思えるが、慶長17年までは下るまい。弧は深くハナレ砂を伴い焼成も良好で、中心飾が宝珠であることや唐草の展開状況は、逆に軒平瓦III類に繋るという見方もできなくはない。軒丸瓦IIIa類と軒平瓦III類の組み合わせは前述のように天正14年（1586）以前、概ね16世紀中葉以後に位置づけられる。

少なくとも軒丸瓦IIIa・IIIb・IV類、軒平瓦III・IVb類は、次に述べるような宮内の瓦師の製品とみられるものである。また藤井氏紋の軒丸瓦V類や中心飾宝珠の軒平瓦II類は、製品の特徴からはそれらと一応分離されるが、瓦当様式と時期観からすれば宮内の製品である可能性を検討する余地がある。宮内は吉備津神社の門前町で近世は社領の内、現在は岡山市吉備津のなかの字名となったが、いまなお広く知名度を保っている。

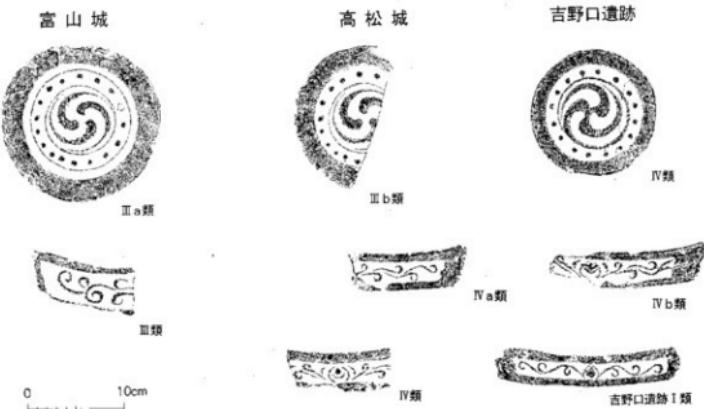
2. 宮内の瓦師の活躍

製品の供給先 御金殿を離れて、瓦師「五郎左衛門」銘と御金殿の軒瓦と同范品の所在状況をみてみる。なお、本項では先に示した御金殿の軒瓦の分類標記をそのまま用いるが、瓦范に限定し、製作技法、法量・形態、胎土・焼成までもが同じである事を意味しないものとする。

御金殿の鬼瓦銘や棟札では瓦師「五郎左衛門」の本拠は明示されていないが、笠岡市甲原の神護寺本堂には天正14年（1586）の「かわら大工 五郎左エ門」などを記した銘瓦や天正15年（1587）の「大工宮内五郎左衛門」ほかを記した瓦葺上げ時の棟札がある^⑨。これに伴う軒瓦は、正に軒丸瓦IIIb類と軒平瓦III類である。また、吉備津宮の関連社で同じ吉備津彦命を祭神とする總社市小寺の御崎神社^⑩では、共伴する軒瓦はもはや不詳であるが、「宮内大工藤原五郎左衛門」銘の鬼瓦と慶長14年（1609）銘の鬼瓦がセットで確認されている。神護寺と御金殿の軒瓦の共有、少なくとも近郊で同時代の宮内以外の「五郎左衛門」の瓦師銘などは見当たらないこと、後述するような製品分布状況や後身瓦師の存在などから、これらの「五郎左衛門」は同じで備中国吉備津「宮内」の瓦師と判断できる。

岡山市矢坂の富山城^⑪では、軒丸瓦IIIa類と軒平瓦III類が出土している。天正14年（1586）の神護寺では既に軒丸瓦はIIIb類に改造されているから、富山城例の製作はそれ以前に位置づけられる。この組合せは、御金殿での流用瓦の組合せとも共通するが、瓦范の傷み具合からして富山城の方が先行しそうである。

岡山市吉備津の吉野口遺跡^⑫では、慶長年間ごろの唐津焼や備前焼などを伴う溝14から普通形態の軒丸の瓦当としての軒丸瓦IV類（吉野口遺跡軒丸III類の一部）と吉野口遺跡軒平I類、別の場所から



第6図 宮内の瓦師による製品

慶長14年(1609)銘の鬼瓦片、軒平瓦IVb類が出土した。これらは、この地にあった道勝寺の瓦と理解されている。このうち、軒丸瓦IV類は、御金殿のIV類と同じ縦割れ範囲が既に入れるがまだ弱く、文様全体も相対的にシャープである。また、軒平瓦IVb類の唐草左右端の切り詰めは、内から5つ目の巻きが、御金殿のIVb類より微妙に多く残っている。すなわち吉野口遺跡の組合せは、慶長17年の御金殿より僅かに先行的で、鬼瓦片の示す慶長14年のものとみなして矛盾ない。なお、ここでの軒丸瓦IV類の丸瓦内面は、コビキBで布目に横糸が縫う。また吉野口遺跡軒平I類は小形で、御金殿では確認できないが、中心飾を宝珠として唐草が三転する文様構成、焼成・胎土の特徴などから、軒平瓦IV類の文様を受けた宮内の瓦師の新たな製品である可能性が強く、吉備津神社の末社で境内の南端にある蘆祭社などでも現役で散見できる。

岡山市高松の備中高松城^⑩では、軒丸瓦IIIb類と軒平瓦IVa類が確認できる。軒丸瓦は同じIIIb類でも、御金殿と異なってコビキは未だAである。軒平瓦III類より新相のIVa類は、瓦范の切り詰めを経た慶長14年の吉野口遺跡出土品より当然古く、高松城例は天正14年から慶長14年の間に位置づけられよう。これは、その清水宗治期ではなく、宇喜多家中の花房期か初期の高松陣屋期に該当する。

このほか、軒平瓦III類が総社市総社の総社宮神楽殿と倉敷市林の熊野神社長床、軒平瓦IVb類が岡山市平山の法土寺本堂で確認できたが、これらを戴く建物は瓦の製作年代までは遡りえず、流用古瓦として存在する。また、岡山市津寺の津寺遺跡高田調査区溝54^⑪からは軒丸瓦IV類が出土している。

	軒丸瓦類	軒平瓦
富山城	III a類 [コビキ A]	III類 [上角面取・凹面布目]
神護寺 [天正14年]	III b類 [コビキ A]	III類
高松城	III b類 [コビキ A]	IV a類 [上角面取・凹面布目]
吉野口遺跡 [慶長14年]	IV類 [コビキ B]	IV b類古・吉野口 I類 [面取と布目は無し]
吉備津神社 御金殿 [慶長17年]	III b・IV類 [コビキ B] +伝世のIII a類	IV b類新 [面取と布目は無し] +伝世のIII類

宮内の瓦師による製品の組合せ

なお、軒丸瓦 I・II類、軒平瓦 I・II・V類の同范品は、今のところ確認できていない。

製品の特徴 ポイントになる建造物や遺跡での、軒丸・軒平瓦の状況をまとめると前頁の表のようになる。今のところ、銘の上では天正14年を最古とするが、富山城例からして、それに先行して宮内の瓦師が成立していたことが判る。その主要な瓦范は、表に掲げた時間枠のうちでは、軒丸瓦が2つ、軒平瓦が吉野口遺跡I類を含めても3つで、多種多様な瓦を絶えず同時に使って大規模生産を行っていたとはみなし難い。瓦范の継続使用期間は、例えば軒丸瓦III類は天正14年と慶長17年を含む26年間以上であることが判るが、IIIaとしての使用期間なども考えると実際は40年程度にも及ぶかもしれない。また、軒丸瓦IV類も、吉野口遺跡例において既に瓦范の傷みが著しく、瓦范初期の製品は未確認ではあるが、事前の相当な使い込みが予想される。

瓦范の使用期間の長さとも関連して、瓦当文様は製作時期の割りに古相を帯びているといえよう。すなわち、慶長17年の御金殿に至るまで、軒丸瓦では巴外周に圓線を残して巴頭部も見かけ上は接しているし、一貫して中心部に宝珠を据える軒平瓦でも、併行期の岡山城での唐草は既に三転ないし二転化しているのに対し、五転余りもあって複雑に展開している。古い要素の温存は成形技法についても言えることで、慶長17年でも丸瓦部外面の繩叩痕が残存し、コビキBの導入までは平瓦凹面に布目痕を残している。そのコビキ技法のAからBへの転換は、高松城例と慶長14年の吉野口遺跡例の間に行われているが、今はそれ以上の年代限界はできない。なお、御金殿の瓦でみた瓦当面のハナレ砂不在、丸瓦部内面の布目を縫う横糸の存在、生地は細かいが赤褐色ないしは黒色の鉄分粒をしばしば含む胎土、炭素吸着度の低さ、全体の焼成のあまさからくる軟質性や器面・断面表部の黄へ褐色傾向も、他所に供給された瓦を含めた宮内の瓦師の製品全般に普遍化できる特徴といえそうである。そのうち天正頃と慶長頃の製品の質を対比してみると、後者は明らかに粗雑化している。

宮内の瓦師の活躍 いま確認できる限り、軒丸瓦III・IV類、軒平瓦III・IV類は、基本的に備中南部の平野部全域に分布するが、当時のこの地域の瓦を独占している訳ではない。また備前の中・東部には及ばない。

今のところ分布の東限をなすのは備前西縁の富山城で、ここに天正14年以前の宮内の瓦が及んでいることは、文様から慶長初めの岡山城の近世城郭への改造期（本丸中の段第Ⅱ期）以降に活躍する宇喜多氏直属ないしは岡山の瓦師¹⁰がこの段階では十分に確立していなかったことの裏返しあろう。この段階の備中は毛利方が優勢であるから、これは自立性をもった瓦師による政治的領域を越えた供給関係であった可能性がある。

岡山城¹⁰では、とりわけ膨大で多種多様な瓦が同時に供給された文様から慶長初め頃の組成の内にも、これら各類は今のところ見いだせない。この時期の宮内の瓦師銘が、寺社などで確認できていないことに加え、当時の岡山城主である宇喜多秀家は、吉備津周辺を支配する一方、吉備津神社本宮社の造営などを援助しており、状況とすれば岡山城の瓦作りに参画していてもおかしくはないが、仮に勤員されていたとしても、事前事後で大差ないその小規模性や保守性と合わせて、宮内の瓦師がその主力でないことだけは確かであろう。宮内に程近いが社寺ではない高松城や津寺遺跡でも、出土瓦のうち宮内の製品は少数派である。少なくとも慶長・元和年間を含む段階、つまり高松城の宇喜多（花房）期末から初期高松陣屋関連期、それに唐津や明の染付と共に津寺遺跡（榎原氏の津寺知行所関連？）での量的な主体は、吉備津神社一帯では確認できない岡山城での主力と同范・同文¹¹の瓦群といえる。なお、高松城出土品で特殊な意匠として古くから注目されている弓・矢に若荷の文様をもつ軒平瓦¹²については、胎土・焼成・技法から、全体とすれば、宮内の瓦師の製品である可能性が考えられる。やはり宮内の瓦師による製品がまとまるのは、やはり神社そして寺である。

宗教的権威と一定の経済力を備えた吉備津神社の門前にあって、その庇護を受けて威光を背負い、その家政的生産機能を担いながらも自立性を保ち、主に近郊ないし関連の社寺での需要に応じて小規模生産をくり返し、少數の瓦范を長年保持して、文様や技法は古い形態を保守する。それが中世末から



第7図 吉備津宮内の瓦飾による製品の分布（御釜殿は除く）

近世初頭、とりわけ天正10年（1582）の高松城水攻め以降の安定期に社寺建築復興の波に乗って活躍した、宮内の瓦師「五郎左衛門」の姿であろう。それは、同時代にあって近世岡山城の建設に主力となって活躍した都市の瓦師とは異なった存在である。

その後の宮内の瓦師 御釜殿の後、銘の上では、元和2年(1616)の吉備津神社本殿屋根(基本的には檜皮葺)葺替時の棟札^回に「瓦工 五郎左衛門」の名がある。その後しばらくは、宮内の瓦師の記載が見当たらないが、江戸中期の宝暦・明和年間(1751~1771)には複数の資料がある。例えば、岡山市平山の法土寺本堂の露盤や鬼瓦には明和4年の「宮内村河村助三郎秀利」銘があり、岡山市吉備津の普賢院仁王門鬼瓦には宝暦3年の同名瓦師銘がある。また、吉備津神社内では、宝暦4年の「瓦大工藤井」銘や恵比寿社の明和9年の「瓦大工 藤井五郎左衛門」銘をもつ鬼瓦が確認できた。藤井銘の鬼瓦二点は普賢院の河村銘一点と共に「宮内」を明示しないが、それはその所在地自身が宮内であり、彼らは「吉備津宮瓦大工」だからである。御釜殿の「五郎左衛門」はこの藤井家に襲名されているのではなかろうか。「藤井」は吉備津宮の社家の名字であり、その姓は藤原である。御釜殿の鬼瓦の「家五郎左衛門」上の判読不能部には「社」か「藤井」が付くのかもしれない^回。そうすれば、彼の出自と格付は吉備津神社の社家の内ということになり、名実ともに家政的職能者といえよう。

江戸前期以降の吉備津神社用とみられる特殊な軒瓦、例えば桐文の軒丸瓦VI類も、彼らの製品であろう。江戸中期以降は、吉備津の瓦師の一般的軒平瓦の主力は、もはや中心飾を宝珠とするものではなく、岡山城下の瓦師と共に中心飾に三巴を据える岡山系三巴文などで、現代に続いている。

幕末には、吉備津神社内でも例えば文政元年（1818）の「加茂村安原喜左衛門元宗」銘の鬼瓦が確認できる。加茂は宮内の西方近隣にあって、新興の瓦師とみられるが、宮内の瓦師の本拠地である吉備津神社内に食い込んでいる。膝元での独占が崩れたことから、幕末には宮内の瓦師はやや勢力減退気味になったともみれるが、それほど瓦師間の競争は壮絶であったのであろう。幕末の加茂の瓦師による一般用軒平瓦の主体は、宮内と同じ岡山系三巴文や菊唐草で、加茂の瓦師は宮内の瓦師と系統的

に深い繋りを持って成立した可能性もある。吉備津神社用に作られたとみられ、今も境内に類品が多い桐文の軒丸瓦Ⅴ類は、宮内もしくは加茂の瓦師の製品とみられるが、どちらであるかは個体そのものからは判断し難い。

本稿は、宮司の藤井敬氏をはじめ、吉備津神社の多大なご協力の賜物であり、数多くのご教示も受けた。また、各出土品や吉備津神社・宮内に関する史料と理解については出宮徳尚・根本修・草原孝典の各氏、笠岡の神護寺の瓦については田中幸夫氏のご教示を得た。拓本・実測などは谷口光子・八木留利子・大西千鶴の各氏の助力を得たものである。記して感謝いたします。
(乗岡 実)

注

- (1) a 藤井駿・水野恭一郎編『岡山県古文書集』第二輯 潮戸内海総合研究会 1955
b 根本修『山陽新聞サンブックス 吉備津神社』山陽新聞社 1995
- (2) コビキ、ハナレ砂、キラコの基本的理義は 森田克行「IV 屋瓦」『揖津高櫻城』高櫻市教育委員会 1984
- (3) 毛利光俊彦・佐川正敏・花谷浩『法隆寺の至寶』第15巻 小学館 1992 以下の、吊紐痕の分類も同文献による。
- (4) 正岡勝夫・岡田博・福田正継・武田恭彰ほか「亀山遺跡」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査』3 建設省岡山国道工事事務所・岡山県教育委員会 1988 本文献の総括で岡田氏は亀山焼と吉備津神社の深い関わりを指摘しているが、その点でも本平瓦の存在は注目される。なお、亀山焼瓦の編年観も同書による。
- (5) a 乗岡実『岡山市近郊における近世瓦の生産と流通』『岡山市の近世寺社建築』岡山市教育委員会 1996
b 乗岡実『第V章 第5節 瓦について』『史跡岡山城跡本丸中の段發掘調査報告』岡山市教育委員会 1997
- (6) 注5 b に同じ。
- (7) 注1 b に同じ。
- (8) 注3文献に同じ。
- (9) 田中幸夫「神護寺の天正14年銘瓦」「瓦板」第14号 播磨中近世瓦研究会 1992
- (10) 永山卯三郎『岡山県金石史』続 1954
- (11) 出宮徳尚「第四章 遺物」『富山城跡第2次調査報告』岡山市教育委員会 1969
- (12) 草原孝典・河田健司ほか「吉野口遺跡」岡山市教育委員会 1997
- (13) 出宮徳尚・根本修ほか「轍中高松城跡公園発掘調査概報」岡山市教育委員会 1976
なお、拓本資料は林信男氏収集品。
- (14) 杉山一雄ほか「第3章 中屋調査区」『津寺遺跡』4 日本道路公団・岡山県教育委員会 1997
- (15) 注5 b に同じ。
- (16) 注5 b に同じ。
- (17) 注5 b に同じ。および同「第IV章 第3節 瓦類」
- (18) 注17に同じ。
- (19) 玉井伊三郎『吉備古瓦圖譜』吉備考古會圖譜刊行所 1941
- (20) 注1 a・b に同じ。
- (21) 御釜殿鬼瓦の「五郎左衛門」の名字のもう一つの候補として、吉備津神社各建物の棟札に大工としてよく登場する堀家(毛)が考えられる。堀家もまた吉備津宮の社家の一つである。
- (22) 注5 a に同じ。

脱稿後、北村圭弘氏のご指摘をきっかけに、軒平瓦Ⅲ類について再検討した結果、唐草の微妙な変化などから、富山城出土品と御釜殿の今回掲載品は同文異范で、軒平瓦Ⅲ類としたものには最低2つの瓦范があった可能性が強くなつた。富山城出土品と同范とみられるものには注19書に掲載された同じ「吉備津宮」の資料があり、いずれも脇区の狭さなどから古相を帯びていて、范の製作自体はこちらの方が御釜殿の今回掲載品の范より古い可能性が窺える。神護寺や總社宮の現役資料は、御釜殿の今回掲載品と同じかより近いものが主体である模様。

あにじんじゃうらやま 安仁神社裏山出土銅鐸

安仁神社裏山出土銅鐸は1893年4月に社地背後の山崖の崩落土中より発見されたものと言われ、古くは1897年に若林勝邦、沼田頼輔両氏により報告されている⁽¹⁾。出土地である安仁神社は吉井川河口部左岸の谷中央付近に所在し、古くはその足元まで海が滴入していたと言われる。安仁神社鐸に関してはこれまでに梅原未治により報告、実測図が公表されている⁽²⁾。また近年、安仁神社鐸を含む銅鐸群の位置付けや系譜関係に複数の見解が提出されており、その鍵となる銅鐸として重要な位置を占める。この報告は1991年に岡山県重要文化財に指定されたのを機に、所蔵者である安仁神社の了承を得て観察、再実測をおこなったものである。なお、梅原未治実測図の面をA面、その裏面をB面とする。

銅鐸の特徴

型式：偏平鉢式四区袈裟擗紋銅鐸

色調：暗緑灰色～黄緑色

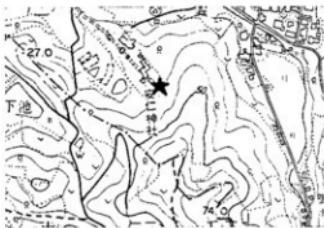
状態：鐸は一部の斜格子紋の凹部に白緑色の錆が薄く付着している以外にはほとんど認められない。内面も薄く青緑白色の錆が浮いているがひどいものではない。鐸身はおそらく錆を落としたときのものと思われる刃物による削痕が縱方向にほぼ全面についており、そのために紋様の多くが削り取られている。また、紐や舞においても削痕は激しく特にB面では刃物の跡跡が生きしく残る。しかしB面には錆、土が残る部分が多く、紋様が不鮮明なのは削られたことが原因というばかりではなく、紋様の鋲出状態自体が悪い面もある。青銅自体の状態は比較的良好ようで、光の加減によっては金銅色に輝いて見える部分もある。

形態：形態は、内反りが大きいこと、鐸身がやや偏平であることを特徴としてあげられる。全体にややいびつであり、A面とB面とで法量の差・ずれが大きく、鐸の器壁の厚さも0.3～0.5cmとやや肉厚な印象を受ける。舞に2、鐸身に4の型持孔、鐸身下辺に型持の切り込みをもつ。型持孔のうちA面右上のものは鋲掛けによりつぶれている。下辺の型持の切り込みは高く切れ上がっている。

紋様：A面、B面で紋様に大きな違いは認められない。先述の削痕等のため紋様は概して不明瞭であるが、B面で特に顕著である。

紐の紋様帶は鰐からづく第1紋様帶に内向する鋸歯紋、第2紋様帶は連続渦紋、菱環部に綾杉紋を配する。B面では不明瞭だが、A面では紐の第1紋様帶の鋸歯紋の方向は中央部から左右対称となっており、左側の紐ではR鋸歯紋、右側ではL鋸歯紋、右側ではR鋸歯紋、R鋸歯紋の順で配されている。菱環紋様帶の綾杉紋は中央に3本の直線を挟んで対向している。

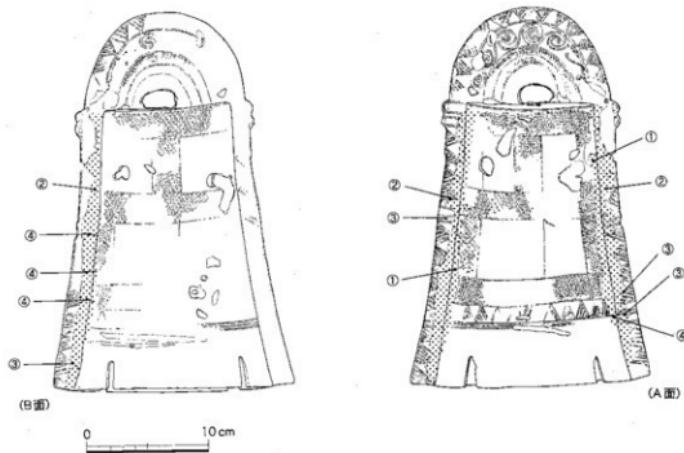
鐸身は横帯優勢の四区袈裟擗紋、下辺横帯は鋸歯紋、下辺横帯の下の界線は3本である。下辺横帯の鋸歯紋も紐および鰐と同じく、中央から左はL鋸歯紋、右はR鋸歯紋となっている。U字形の飾耳が3対存在するが、下の2対は頭部がなく4本の実線表現のみである。この2対の飾耳は鰐の鋸歯紋と重複しており、A面左下のものは実線表現が3本しか認められない。またA面向



第1図 銅鐸出土地

	A面	B面
総高	31.2	
鐸身高	23.4	23.5(23.0)
舞の長径	10.4	10.7
舞の短径		7.3
下辺横帯の下界線下端の長径	14.3	14.4
同短径		9.1
鐸身下縁の長径	16.3	16.4
同短径		10.4
鰐幅	1.5～2.0	1.3～1.8
紐高	8.0	7.9
菱環中央部の厚さ		0.6

表1 安仁神社銅鐸法量一覧表(単位:cm)



第2図 鑄型補修痕

かって右上の飾耳は鉛掛けにより作り出されており、半環状飾耳が彫り出されている。また、鈕の鋸歯紋は基本的に鈕第1紋様帯から続くものだが、A面左側の鈕では中央部付近から鋸歯紋の方向が再び反転してR鋸歯紋になっている。

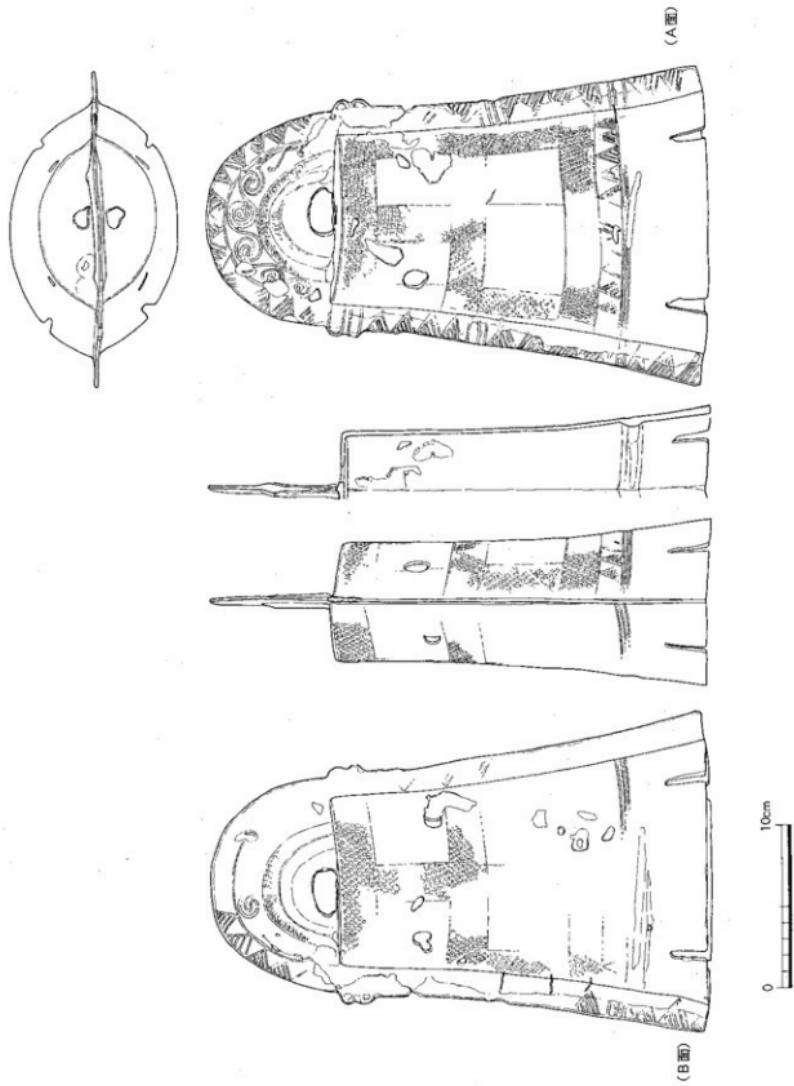
鉄造：全体に鉄上がりが悪く鈕の連続渦紋、綾杉紋は特に不鮮明になっているほか、鈕の菱環部の付け根や内面突帯の外側などでは外引けが認められる。また鉛損じ孔も多く各所に鉛掛けを行っている。特にA面右上の鈕から鈕にかけては鉛掛けによって飾耳も含め作り出されている。鉛掛け部分には刻みや小孔など「足掛かり」を設けている。内面では足掛りの部分が球状に膨らんでいるのが観察できる。また先述のようにA面右上の型持たせ孔は鉛掛けによってつぶれており代わりにその上の鉛損じ孔が残されている。舞A面側の型持孔には研磨痕が残る。一方、鈕から鐘身にかけての屈折部に、①鋸歯紋、袈裟襷紋の斜格子紋が消えている。②鈕では付け根付近にわずかに肉厚な部分が認められる。③鈕の鋸歯紋、飾耳の付け根などに画き足しと見られる描線の食い違いが認められる。④A面右側の下辺横帯付近、B面左側中位に鉄型側のひびとみられる描線とは異なる突線が存在する。といった状況が認められ、鉄型を補修した痕跡と思われる。

以上の特徴および紋様の描線も伸びがなく、著しいはみ出し等も認められないことから石製鉄型による製品と考えられる。少なくともこの銅鐘以前に造られた同范鐘がひとつは存在するものと思われるが、現在までに同范鐘は確認されていない。

まとめ

安仁神社鐘は色調、铸造上の特徴などから石製鉄型で作られたものと判断でき、従来的には偏平鈕式の古段階（III-1式）に位置付けられる。III-1式の四区袈裟襷紋銅鐘のうち、3対の飾耳を持つものは少なく、この安仁神社鐘の他に伝大阪府四條畷出土銅鐘、出土地不明平泉澄香氏旧蔵2号銅鐘がある。難波洋三、春成秀爾両氏はこれら3鐘を「安仁型」とし、II-2式の3対耳四区袈裟襷紋銅鐘群の系譜をひき、III-2式の渦森型、長者ヶ原型につながる3対耳四区袈裟襷紋銅鐘の系譜を指摘している⁽³⁾。これに対し、中野倫太郎氏は3対耳以外の諸特徴の共通性から種松山型銅鐘群を含む一群のなかに含める説をとる⁽⁴⁾。中野氏の論は飾耳の変遷、石製鉄型から土製鉄型への画期などからIII-1式四区袈裟襷紋銅鐘群の一部をII-2式併行に引き上げるもので、従って安仁神社鐘を含む3鐘は難波・

第3図 安仁神社羽津実測図

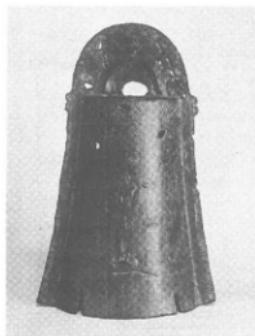


春成両氏のII-2式3対耳四区袈裟襷紋銅鐸群とは併行する別の系統の一群ということになる。

ここで安仁神社鐸をみると、下2対の飾耳は耳脚のみの表現である上に鋸歯紋と重なったり、突線表現が3本しかなかったりと3対耳への過渡的な様相ととらえられる。また、紐に鋸歯紋、連続渦紋、綾杉紋を配する、横帯優先の四区袈裟襷紋、鐸身の形態などの特徴は種松山型と共通するものであり、銅鐸絵画や四頭渦紋など共通する部分の多いII-2式3対耳四区袈裟襷紋銅鐸群と渦森型の間をつなぐ銅鐸群とは考えがたい。したがって安仁神社鐸は種松山型と同系統の銅鐸であり、1対耳の種松山型銅鐸群と二重U字の飾耳3対をもつ伝四條駿鐸をつなぐものととらえられ、その編年的位置も1対耳から3対耳という変化を含むことから、中野氏の指摘するようにII-2式段階とするのが妥当と思われる。また安仁神社銅鐸において注目されるのは、鑄型の補修痕が認められることである。この縁の付け根部分は鑄型では稜になる部分であり、鋳造の際最も破損しやすい部分といえる。のことから安仁神社銅鐸は少なくとも2作目以降の鋳造品であると思われるが、同范跡は確認されていない。

(安川 満)

- (1) 若林 勝邦 1897 「考古資料 備前備中の銅鐸」『考古学雑誌』第9号 日本考古學會
- 沼田 輝輔 1897 「吉備考古雜俎」『考古学雑誌』第9号 日本考古學會
- (2) 梅原 末治 1927 「銅鐸の研究」資料編・図録編 大岡山書店
- 梅原 末治 1951 「岡山県下発見の銅鐸」『吉備考古』83 吉備考古學会
- (3) 春成 秀爾 1992 「銅鐸の製作工人」『考古学研究』第39卷第2号 考古学研究会
- (4) 中野倫太郎 1992 「銅鐸」『吉備の考古学的研究』(上) 近藤義郎編 山陽新聞社



A 面



B 面



紐 (A面)



鋳型補修痕

かたおかけ 片岡家所蔵出土地不明銅鐸

片岡家銅鐸は片岡家に所蔵される多くの考古資料のひとつである。本銅鐸に関しては根本修氏により詳細な報告がなされている⁽¹⁾が、1991年片岡家当主片岡俊彦氏のご厚意により観察、再実測する機会を得た。片岡家銅鐸は出土地、出土の経緯とも不詳である。1975年8月8日には岡山市の重要文化財に指定されている。本銅鐸はその特徴的な紋様などから位置付けの難しい銅鐸といえる。根本は下辺横帯の紋様構成などから福田型銅鐸との関連を指摘し、福田型銅鐸と偏平紐式との間をつなぐものとして位置付けている。しかし近年、福田型銅鐸の位置付けもゆれており、片岡家銅鐸も福田型銅鐸との関連の有無にかかわらず再検討の余地があるものと思われる。なお、鐸面の表現（A面、B面）は根本報告に従うものとする。

銅鐸の特徴

型 式：外縁付紐2式四区袈裟擗紋銅鐸

色 調：暗緑色

状 態：茶室に吊り下げられ、ドラなどの代用品として鳴らされていたということで、A面のほぼ中央下半部、同やや右よりの第2横帯下半に打撃によるくぼみが存在する。また錆落としのためと思われる刃物によるキズが随所にみられ、特に紐において顯著で紋様がほとんど削られている。内面は薄く青緑白色の錆が全面を覆っており、錆落としや土をかき出した時につけられたと思われる傷が各所に認められる。長期にわたり吊るされていたためか紐外縁、紐孔の破損も激しく、錆の端部も破損している。

形 態：やや内反りのある小型の銅鐸で、舞に2、鐸身に4の型持孔、鐸身下辺に型持の切れ込みをもつ。下辺の型持孔はやや高く切れ上がっている。鐸身はやや偏平で紐の菱環は低く、外縁との境界は不明瞭。鐸身上端に一对の飾耳をもつ。

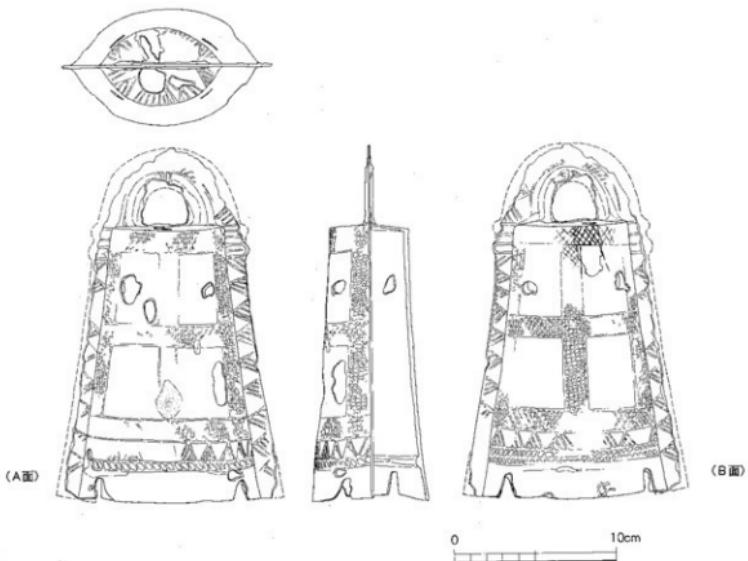
紋 様：紐は綾杉紋の菱環紋様帶、鰐からつづく鋸齒紋帶（第1紋様帶）からなる。菱環紋様帶の中央は3本の軸線により区切られており、綾杉紋はそれを挟んで対向している。鰐には身の上端に飾耳を一对もち、左右で逆方向の鋸齒紋を配する。この鋸齒紋は飾耳を挟んで紐の鋸齒紋とも逆転しているようであり、さらに紐の頂部付近で逆転している。すなわち、向かって左側の鰐からL→R→L→Rの順に施されている。また飾耳はB面では単にU字、あるいは不明瞭になっているもののA面右側のものは中心に軸線をもつものであり、同面左側のものも同様の表現をとっている可能性もあるが明確でない。

舞面の紋様は内側に先を向ける鋸齒紋である。A面にはL鋸齒紋が配されるが、型持孔にかかる部分では型持孔に集まる直線群になっている。B面では型持孔付近から左側がL鋸齒紋、右側がR鋸齒紋となっているようである。

鐸身は横帯優勢の四区袈裟擗紋で、下辺横帯は鋸齒紋、下辺横帯の下の界線の部分には綾杉紋帶を配する。A面では袈裟擗紋部分がやや広く、下辺横帯の下の界線は綾杉紋帶の下半分だけとなっている。下辺横帯の鋸齒紋は、A面ではやや右寄りから左はR鋸齒紋、右はL鋸齒紋、右端の1つはR鋸齒紋となっている。B面では右端の1つだけがR鋸齒紋、他はすべてL鋸齒紋となっている。

	A面	B面
総高	(21.9)	
鋸身高	17.1	17.0
舞の長径	7.7	7.5
舞の短径	4.8	
下辺横帯の下界線下端の長径	10.6	10.7
同短径	6.9	
鋸身下縁の長径	11.2	11.4
同短径	7.2	
舞幅	1.1~1.3	0.9~1.1
鋸高	4.8	4.9
菱環中央部の厚さ	0.5	

表1 片岡家銅鐸法量一覧表（単位：cm）



第1図 実測図

鋳造：紋様の鋳上がりは比較的よいが、鋸身B面の袈裟襷紋の上半部分等が不鮮明になっているほか、A面に3ヶ所、舞からB面にかけてやや大きめの鋸損じ孔が存在する。舞からB面にかけてのものには10～12個の小孔（足掛け）を設け鋸掛けが行われており、鋸掛け後に袈裟襷紋を補刻している。また、鋸面は鋸型のものと思われるわずかな凹凸がみられる。外引けは内面突帯下側の表などにわずかながら認められるが目立つものではない。

以上の特徴からも、石製鋸型による製品と考えられるが、同范鋸は確認されていない。

まとめ

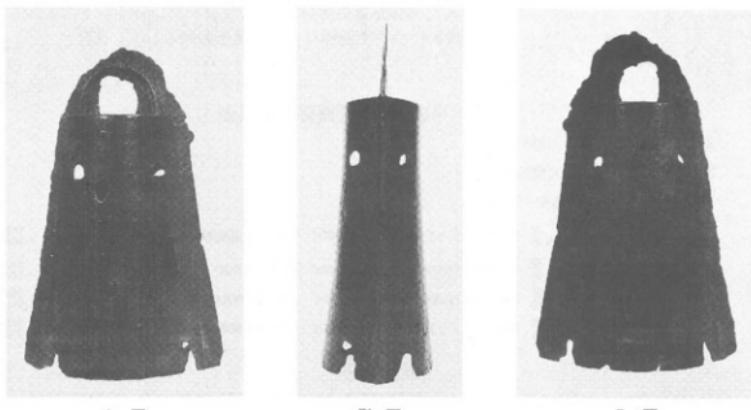
片岡鋸は紐の形態、舞の型持孔の形態などから外縁付鋸2式に位置付けられている⁽²⁾。片岡鋸の特徴としては第1に舞面に鋸歯紋をもつ、下辺横帯の下の界線が綾杉紋帯になっているといった紋様の特徴が挙げられる。舞面に紋様をもつ例は他に、兵庫県飾磨郡夢前町神種出土の菱環鋸式横帯紋銅鋸、京都市右京区梅ヶ畠向地町出土の外縁付鋸2式四区袈裟襷紋銅鋸（1号鋸）がある。神種鋸は舞面に外向きの鋸歯紋を3列巡らせるもの、梅ヶ畠1号鋸は対向鋸歯紋帯・斜格子紋帯などを複数配するもので、いずれも片岡鋸に比べ精緻なものである。また、下辺横帯の下の界線の部分など鋸身に綾杉紋帯が認められる例としては福田型と呼ばれる横帯紋銅鋸群の他に、吉田屋旧蔵出土地不明の偏平鋸式四区袈裟襷紋銅鋸には下の界線の部分ではなく鋸身の下辺に近い部分に、兵庫県神戸市灘区桜ヶ丘出土の偏平鋸式四区袈裟襷紋銅鋸（5号鋸）では各横帯の下半部に綾杉紋帯が施されている。

片岡鋸の位置付けに関して根木は、福田型銅鋸や神種鋸に関連づけられる紋様構成など「外縁付鋸式」のなかにあっては、「より古い要素」と同時に、鋸歯紋や飾耳の脚の特徴などより新しい様相を指摘し、福田型銅鋸と偏平鋸式銅鋸のあいだを結ぶものとして外縁付鋸式に位置付けている。しかし、福田型銅鋸は、鋸身の型持孔を持たないなど「普通の」銅鋸とは異なる技術のもとで铸造されているとされ⁽³⁾、編年的位置もII-2式（外縁付鋸2式）併行という説や、佐賀県安永田遺跡の鋸型の共伴関係、

鉛同位体分析などから偏平鈕式のおわりから突線鈕式併行に位置付ける説などがある。従って、片岡鐸を福田型銅鐸との関連、特に福田型銅鐸と偏平鈕式銅鐸を結ぶものとして評価することは難しい。それでは片岡鐸を他の銅鐸（群）と比較して見るとどうであろうか。片岡鐸の主要部分の紋様構成は多くの点で種松山型銅鐸と呼ばれる偏平鈕銅鐸群との共通性が指摘できる。片岡鐸と種松山型との共通点は横帯優勢の四区袈裟襷紋、中央を3本の軸線で区切る菱環部の綾杉紋、外縁～鍔の鋸歯紋が左右対称であること、一対耳、やや切れ長の身下辺の型持の切り込み、やや偏平な身などが挙げられ、大きさの差や鈕の文様構成はもとより、身の反りがさほど強くないなど相違点もみられるが、両者が関係の深い銅鐸（群）である可能性は高い。近年、この種松山型銅鐸とそれに近い特徴をもつ偏平鈕式銅鐸の一群を外縁付鈕式併行に繰り上げる説⁽⁴⁾も提出されており、両者の時間的関係も非常に近いものである可能性もある。

(安川 満)

- (1) 根木 修 1980 「伝片岡家銅鐸」『古代吉備』第8集 古代吉備研究会
- (2) 鮎波 洋三 1987 「銅鐸研究の現状と課題」『島根考古学会誌』第4集 島根考古学会
- (3) 森田 稔 1996 「銅鐸鑄型の復元的考察－東奈良出土銅鐸鑄型を中心に」『古代東アジアの青銅製品鑄造に関する基礎的研究』
森田 稔 1996 「銅鐸鑄造技法の地域的特性」『弥生後期の瀬戸内海』古代学協会四国支部第10回松山大会資料 古代学協会四国支部
- (4) 中野倫太郎 1992 「銅鐸」『吉備の考古学的研究』（上） 近藤義郎編 山陽新聞社



A 面

側 面

B 面

編者ひとこと

埋蔵文化財センター建設予定地が決まりました。用地も取得されました。図面も最終段階にかかっています。念願の「マイ・ホーム」は目の前です。岡山市もようやく他市なみになるのでしょうか。まず、期待したいと思います。

今回は、「資料紹介と研究ノート」を設けることができました。調査員たちは発掘調査だけでなく、文化財指定や保存修理の諸事務などにも関わっており、その時々に資料整備や調査も行います。その時得る資料は結構興味深いものもあり、それを契機に迷宮の世界に足を踏み入れてしまった調査員もいます。四苦八苦あるいは楽しんでまとめたであろう「資料紹介と研究ノート」を掲載できることを嬉しく思います。調査員の努力に感謝。今後も余力があれば掲載していきたい。

話をしていると結構面白いことをしゃべるのに、一向に文章化しない人がいます。話を聞いていると面白いのに、文章ではその面白さが伝わらない人がいます。話も文章も面白い人がいます。話は下手なのに、文章は上手い人がいます。話も文章も下手な人がいます。でも皆一所懸命。みんながみんな同じになることはないと私は思います。ちがうから楽しいのだと思います。そんな連中が書いています。

内容について忌憚ないご意見をお待ちしています。

95(平成7)年度概要の正誤表

24頁 第2図 写真の天地が逆

30頁 第3図 写真の天地が逆

埋蔵文化財発掘の届出通知一覧の追加

57条の2 敷 布 通 路	岡山市内山下一丁目11-101	3,337m ²	事務所・変電所建設	岡山市内山下一丁目4番9号 電話受付室 取扱 告 960507	～960925
98条の2 集 田 通 路	岡山市神下・米田地内	904m ²	米田側道橋架設	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝 960311	～970331
集 町 通 路	岡山市雄町350番地ほか	100m ²	公園造成・浄化槽設置	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝 960401	～961130
敷 布 通 路	岡山市内山下一丁目11-101	1,161m ²	事務所・変電所建設	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝 960408	～970331

岡山市埋蔵文化財調査の概要

- 1996年度 -

発行年 1998年3月31日

発行 岡山市教育委員会
岡山市大供一丁目1-1

編集 社会教育部文化課

印刷 大和印刷株式会社